

---

---

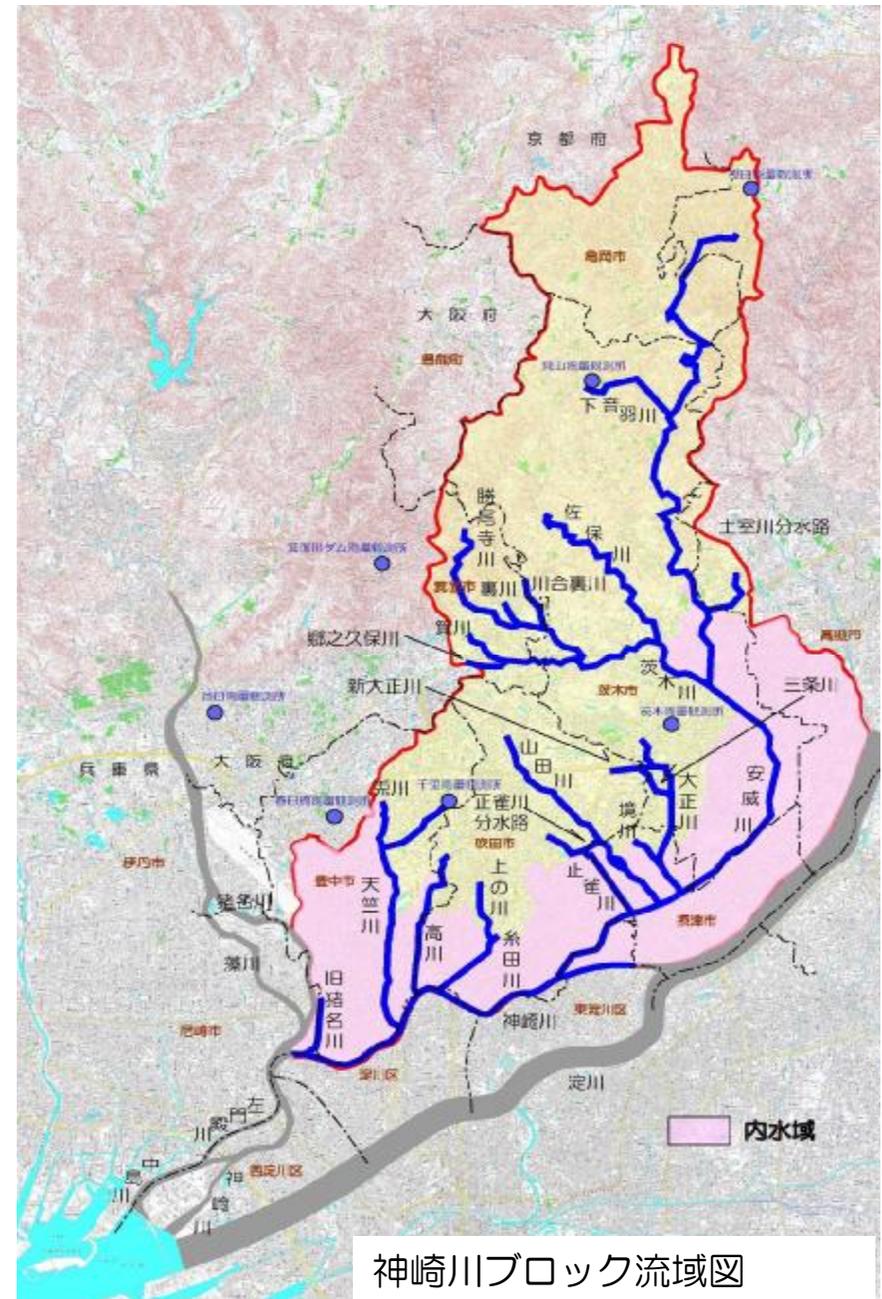
# 淀川水系 神崎川ブロックの 流域の概要について

---

---

# 1.神崎川ブロックの現状（(1)ブロックの特徴）

- 神崎川ブロックは24河川で構成
- 流域の約3割が内水域
- 天井川がある。（高川、天竺川）
- 流域内人口は約204万人と府域人口の約1/4を占める。
- 山地から市街地まで様々な流域特性を備えたブロックである。（都市～まち～里地～山地）
- 流域の南部は都市化が進み、資産が集中している。
- 我が国の国土軸となる重要な交通網が整備されている。  
広域緊急交通路：名神高速道路、中国自動車道、近畿自動車道、国道171号、国道423号など  
鉄道：東海道・山陽新幹線、JR京都線、阪急線、地下鉄御堂筋線など



# 1.神崎川ブロックの現状（(1)ブロックの概要）

神崎川ブロック対象河川一覧

河川名	延長(km)	河川名	延長(km)	河川名	延長(km)
神崎川	11.4	正雀川	3.5	佐保川	6.8
旧猪名川	1.4	正雀川分水路	0.5	勝尾寺川	9.6
天竺川	7.6	山田川	7.4	箕川	3.8
兔川	1.5	大正川	5.3	郷之久保川	0.9
高川	4.3	境川	1.0	川合裏川	2.2
糸田川	2.3	三条川	1.7	裏川	0.8
上の川	1.8	新大正川	1.1	土室川分水路	1.1
安威川	28.2	茨木川	2.1	下音羽川	3.2

神崎川ブロック対象河川:24

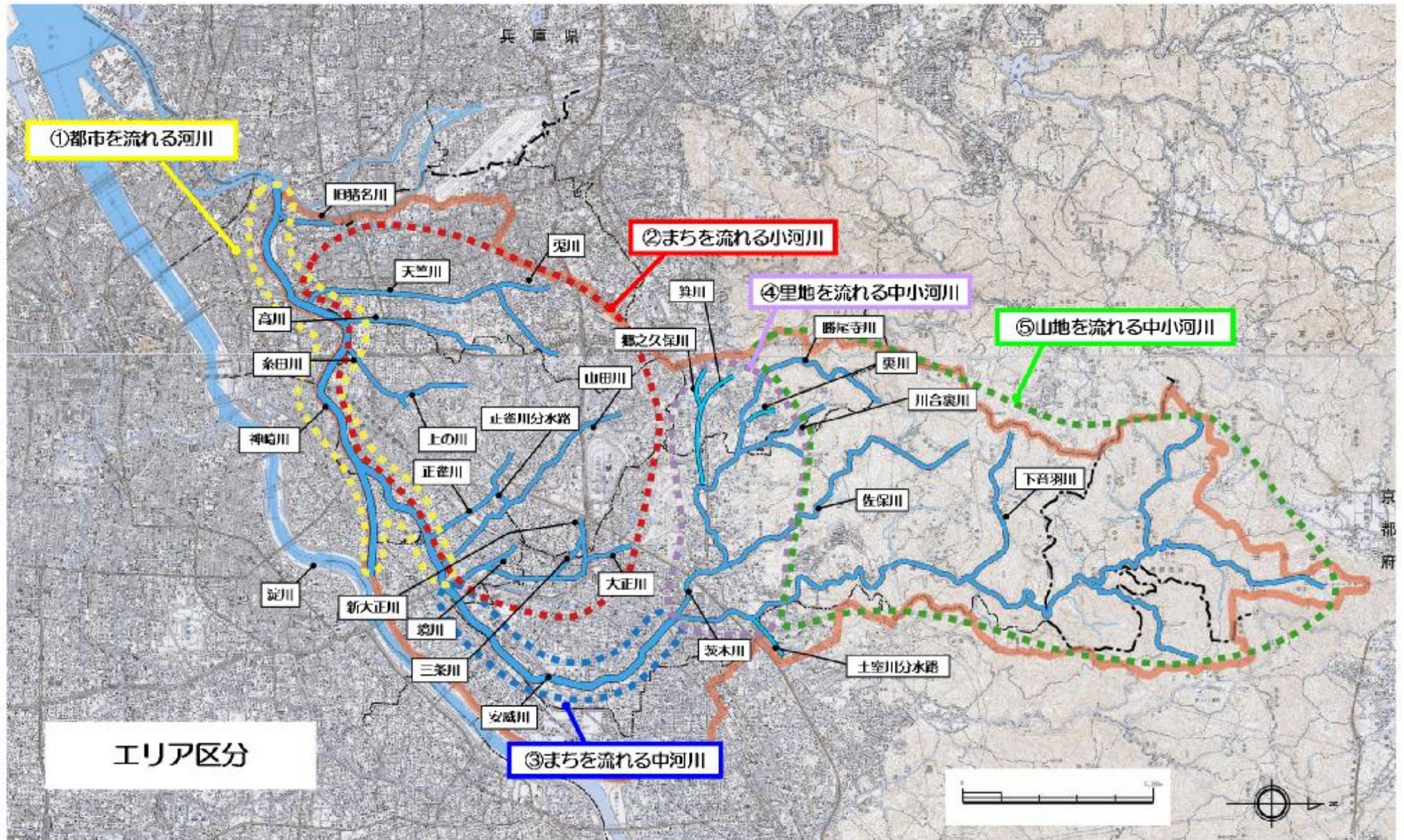
流域市が占める割合

市名	流域内面積(km <sup>2</sup> )	流域に占める割合(%)	市名	流域内面積(km <sup>2</sup> )	流域に占める割合(%)
大阪市	2.2	1.0	高槻市	19.7	9.5
豊中市	25.3	12.1	箕面市	11.6	5.6
吹田市	35.1	16.9	豊能町	0.1	0.1
摂津市	13.0	6.2	尼崎市	0.6	0.3
茨木市	76.5	36.8	亀岡市	24.0	11.5
合計				208.1	100

# 1.神崎川ブロックの現状（(1)ブロックの特徴）



# 1.神崎川ブロックの現状（(1)ブロックの特徴）



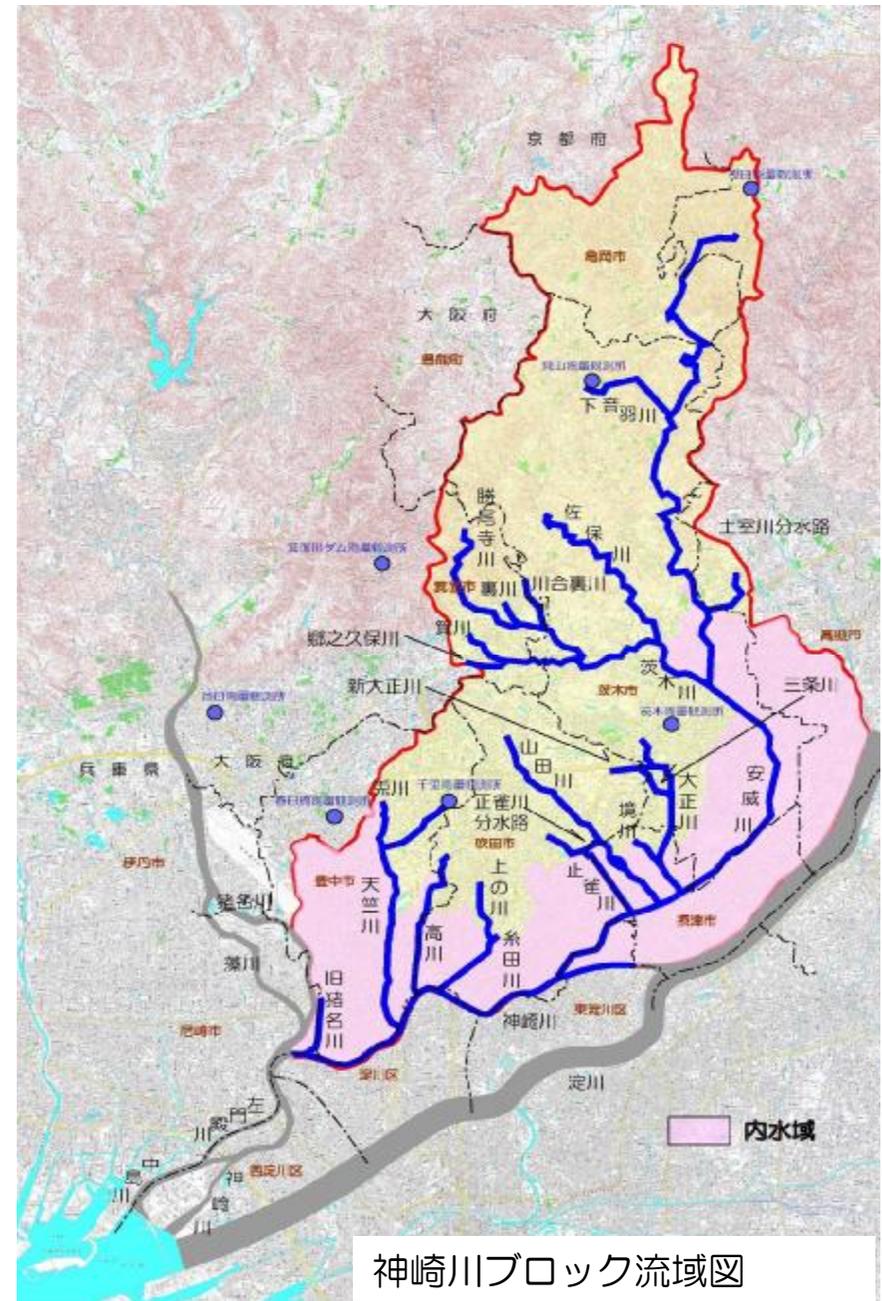
# 1.神崎川ブロックの現状（(1)ブロックの概要）

神崎川は、摂津市の一津屋で淀川より分派し、安威川をはじめ糸田川、高川、天竺川を合流しながら西へ流下し、右支川猪名川を合流して南下すると共に、左門殿川、中島川を分派しつつ大阪湾に注ぐ、流路延長が**18.6km**（猪名川合流点より上流の流路延長は**11.4km**）の一級河川です。

安威川は、京都府亀岡市竜ヶ尾山や高槻市の檜田地区に源を発し、途中下音羽川と合流して南流し、茨木市田中町付近で茨木川と合流してさらに南流し、摂津市域で流路を西方に変えながら、大正川、山田川、正雀川と合流し、大阪市東淀川区相川で神崎川に注いでいます。流路延長は**28.2km**（京都府亀岡市域内を除く）となっています。

神崎川ブロックは、猪名川合流点より上流の神崎川及びその支川から構成されます。

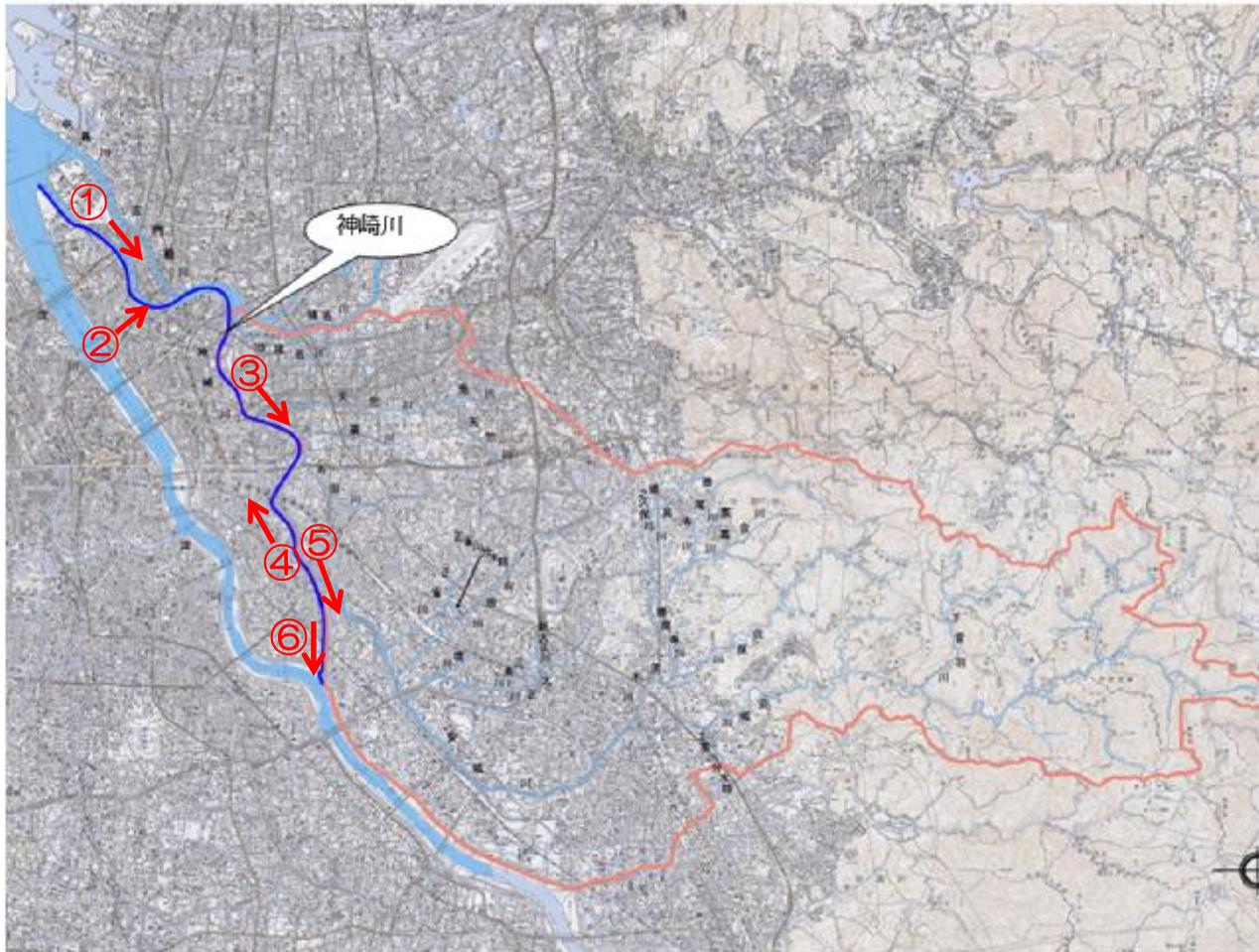
流域面積は**208.1km<sup>2</sup>**となっており、神崎川流域と当ブロックで最大の支川である安威川流域に大別でき、大阪府全体を地域分割した場合の豊能地域と三島地域にまたがって位置しています。また流域の下流部は地盤標高が出水時の河川の水位より低いために溜まった雨水を河川に自然放流できない内水域となっており、全体の約3割（**65.3km<sup>2</sup>**）を占めています。



神崎川ブロック流域図

# 1.神崎川ブロックの現状（2）河川の概要：神崎川

神崎川本川は全区間にわたり河床勾配が水平から1/6,000程度と緩く、潮位の影響を受けやすい河川です。周辺は古くから開発が進み、市街地が形成されています。鋼矢板護岸が設置され、都市の中の貴重なオープンスペースとして自転車道、遊歩道をはじめとする高水敷の整備が行われています。これらのオープンスペースについては、地域の自治体や周辺の企業体の協力を得ながら維持管理（清掃など）がされています。



① 神崎川 西淀川区中島  
城島橋上流



② 神崎川 西淀川区佃  
神崎大橋下流 防災船着場



③ 神崎川 淀川区三国  
三国橋上流



④ 神崎川 東淀川区西淡路  
新大吹橋下流



⑤ 神崎川 吹田市南高浜町  
高浜橋上流



⑥ 神崎川 東淀川区南江口  
江口橋上流

# 1.神崎川ブロックの現状

## (2)河川の概要：天竺川・兎川・高川・糸田川



各河川ともコンクリート護岸の勾配が急で、水辺に近づきにくくなっています。神崎川合流点付近は河床勾配も緩く、一部は天井川となっている上、河道周辺は住宅が密集しているため、災害時には甚大な被害が予想される河川です。高川は服部緑地より下流側で、景観に配慮したコンクリートの法面、河道へのアクセスのためのスロープなど、利用に配慮した整備がされています。

糸田川の中上流部では、川沿いに桜並木があり、一部で桜堤整備が実施されています。

上の川は、丘陵地開発により市街化が進んだ地域を流れ、流域には雨水貯留施設やため池が点在しています。

天竺川



① 道田橋より下流



② 中天竺橋より下流

兎川



③ 熊野田歩道橋より上流

高川



④ 稲荷橋より上流

糸田川



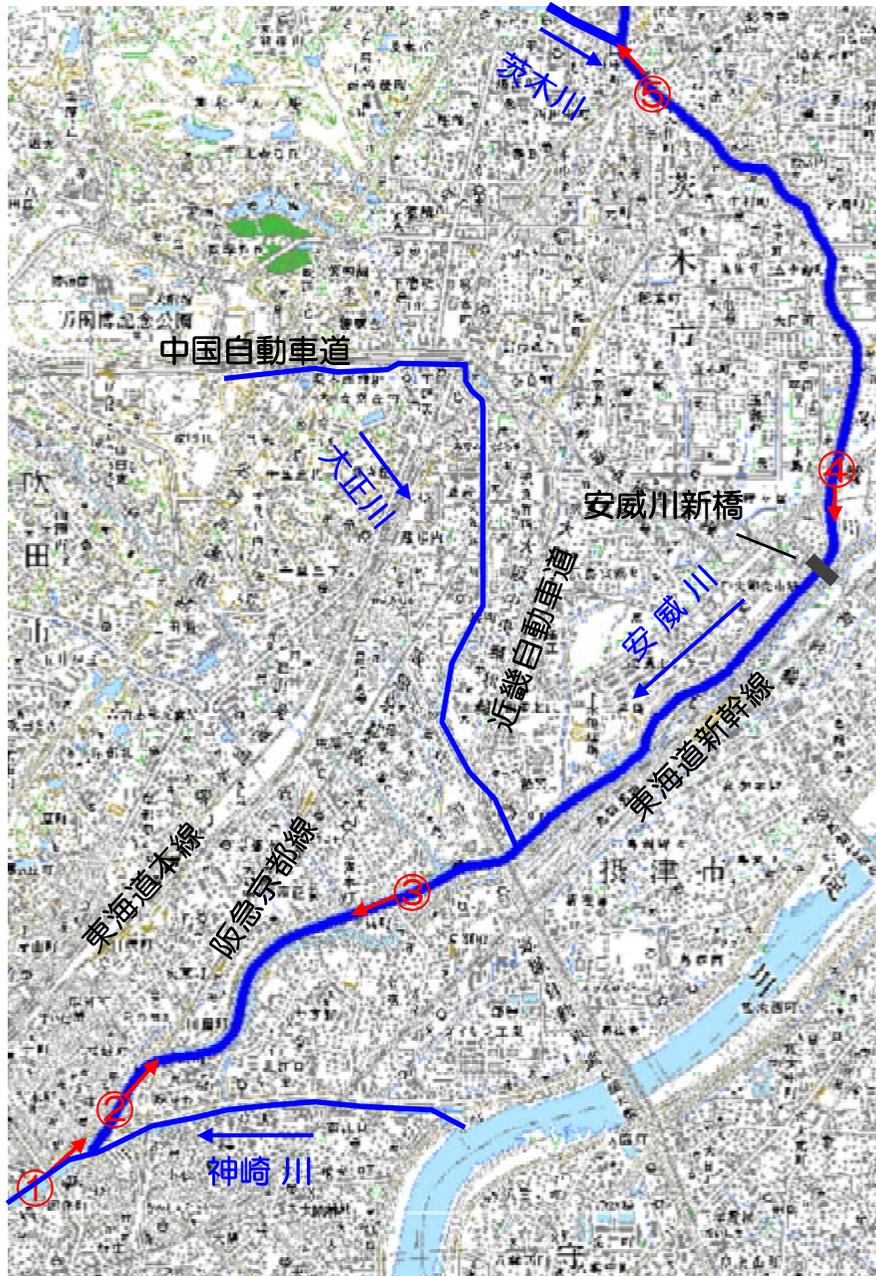
⑤ 金田橋上流付近

上の川



⑥ 暗渠区間上流付近

# 1.神崎川ブロックの現状（4）河川の概要：安威川下流）



## （1）神崎川合流点～茨木川合流点付近

安威川下流（神崎川合流点から安威川新橋付近）では川幅が100m以上と広く、高水敷を有する複断面の河川がほぼ直線上に流れています。高水敷の一部は自転車道として活用されています。

大正川との合流部付近までは感潮域となるため川幅いっぱい水面が見られます。河床勾配は1/1,500～1/2,000と非常に緩く、水の流れはほとんどありません。大正川合流部より上流の両岸には砂州が形成され、ツルヨシ等の生育が見られます。

安威川中下流（安威川新橋付近～茨木川合流点付近）では川幅は70～80m程度となっています。高水敷を有する複断面であり、緩やかに蛇行しながら流れています。高水敷は、広場や遊歩道等として整備されているほか、桜堤の整備がすすめられており、地域の人々の憩いの場となっています。河川の蛇行部には砂州が形成されています。河床勾配は1/500～1/900程度で緩やかに流れています。



① 高浜橋より上流



② 新京阪橋より上流



③ 安威川橋より下流



④ 玉島橋より下流



⑤ 西河原新橋より上流

# 1.神崎川ブロックの現状 (4)河川の概要：安威川上流



## (2) 茨木川合流点上流

安威川中上流（茨木川合流点付近～長ヶ橋）では川幅は50m程度となります。土室川分水路合流部までは複断面であり、高水敷には遊歩道の整備が施されています。河床勾配は1/300程度となっています。周辺には農地が見られるようになります。

安威川上流（長ヶ橋より上流）では農地や樹林の間を蛇行しながら流下しています。川幅は20～30m程度と狭くなっています。河床材料は、砂から砂礫や礫に変わり、上流部では岩盤も見られます。河床勾配も1/100以下と急になります。山付き部は河畔林が水面まで迫る渓流の様相を呈します。瀬・淵の連続する多様な河川形態となっています。



① 西河原橋より上流



② 太田橋より下流



③ 長ヶ橋付近より下流



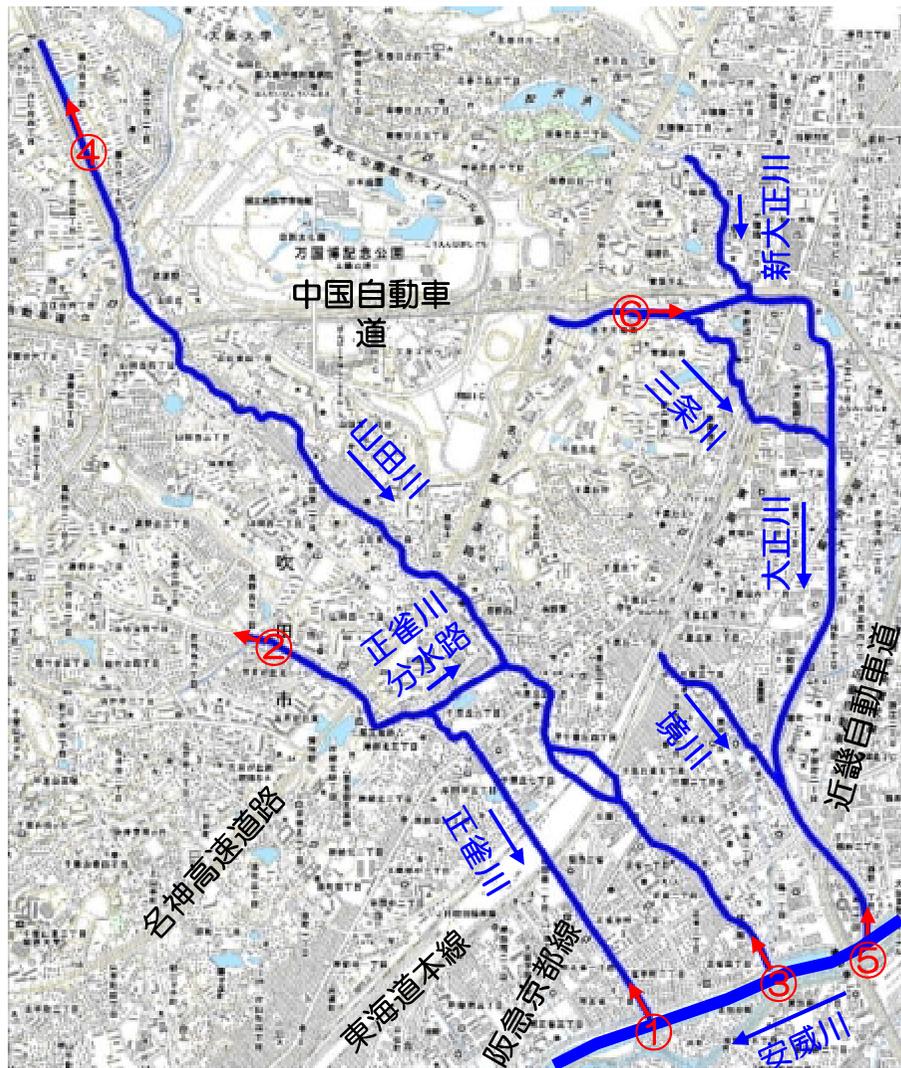
④ 左岸側より下流



⑤ 上流端より下流

# 1. 神崎川ブロックの現状

## (4) 河川の概要：大正川・山田川・正雀川



大正川の下流部は、安威川と同様に高水敷を有する複断面となっており、高水敷は、遊歩道等として整備されています。加えて桜堤整備も進められており地域の人々の憩いの場となっています。

大正川の上流部や山田川などの支川は、コンクリート護岸の勾配が急で、水辺には近づきにくくなっています。

正雀川では、環境対策として安威川との合流点付近に錦鯉を放流するなどの試みがなされています。

正雀川	山田川	大正川
		
① 河口付近より上流	③ 河口付近より上流	⑤ 河口付近より上流
		
② 上流端付近	④ 無名橋より上流	⑥ 八丁橋より下流

# 1.神崎川ブロックの現状 (4)河川の概要：茨木川・佐保川



茨木川は河幅が40～50m程度、河床勾配が1/350程度となっています。昭和42年の北摂豪雨を契機に本格的な河川整備が進められ、安威川合流点から勝尾寺川合流点までの区間が改修済みとなっています。河道はコンクリート護岸で整備されており、堤防には階段護岸、高水敷には遊歩道などが整備されています。人工的な護岸となっていますが、寄り州が発達してヨシ、クサヨシ等が生育しています。

佐保川は、勝尾寺川合流点より上流の旧茨木川をさし、平成12年に名称変更がされました。上流は河床勾配が1/30ですが、集落があり古い護岸が築かれて河川になじんだ様相となっています。その下流は山地ですがとところどころに田畑が開かれ、下流部では河床勾配が1/350とやや緩やかになり、住宅地が広がっています。

茨木川



① 田中大橋より上流



② 名神高速直下付近より下流



③ 幣久良橋より上流

佐保川



④ 府道110号直下付近より上流



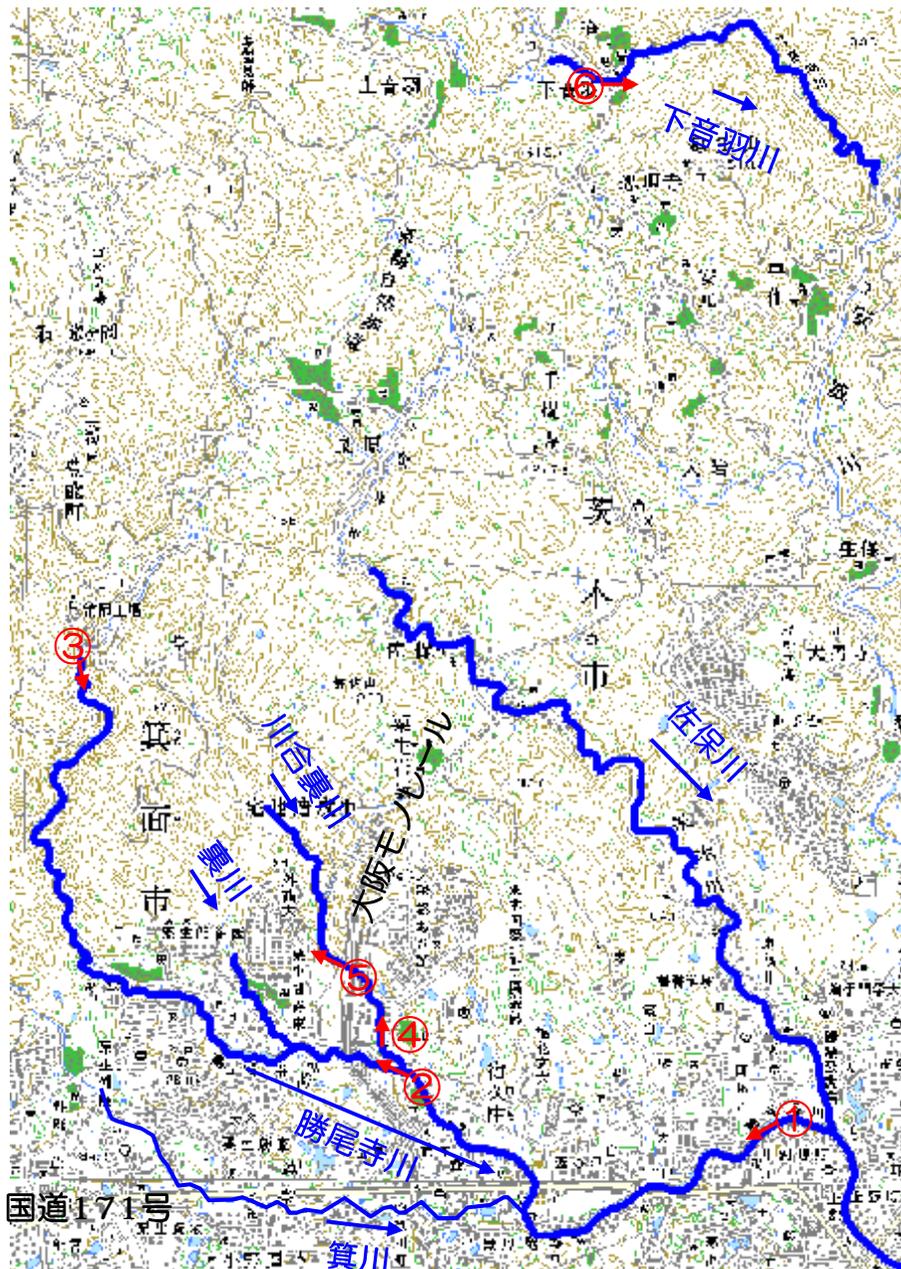
⑤ 上流付近



⑥ 上流端付近

# 1.神崎川ブロックの現状

## (4)河川の概要：勝尾寺川・川合裏川・下音羽川



勝尾寺川上流は河床勾配が1/30、下流は1/50とやや緩やかになっていますが、河床勾配が急なため、砂防ダム、落差工、取水堰等多くの横断工作物が設置されています。上流部は山地河川で両側に山が迫り、短い区間で瀬と落差が連続します。下流部では箕川が合流しており、勝尾寺川下流部、箕川周辺は市街化が進み、河道はコンクリート護岸で整備されていますが、河川内には寄り州が形成され、瀬や河原のある多様な環境となっています。

川合裏川は河床勾配が1/150、河川幅10m程度の急流河川でしたが、平成16年度にまちづくりと一体となった河川整備が完了し、彩都（国際文化公園都市）のまち開きが行われました。

下音羽川は上流部では農地や樹林の間を蛇行しながら流下し、下流部では山付き部となり河畔林が水面まで迫る溪流となっています。

### 勝尾寺川



① 中河原橋より上流



② 合流点付近



③ 上流端付近

### 川合裏川



④ 裏川橋より上流



⑤ モノレール直下より上流

### 下音羽川

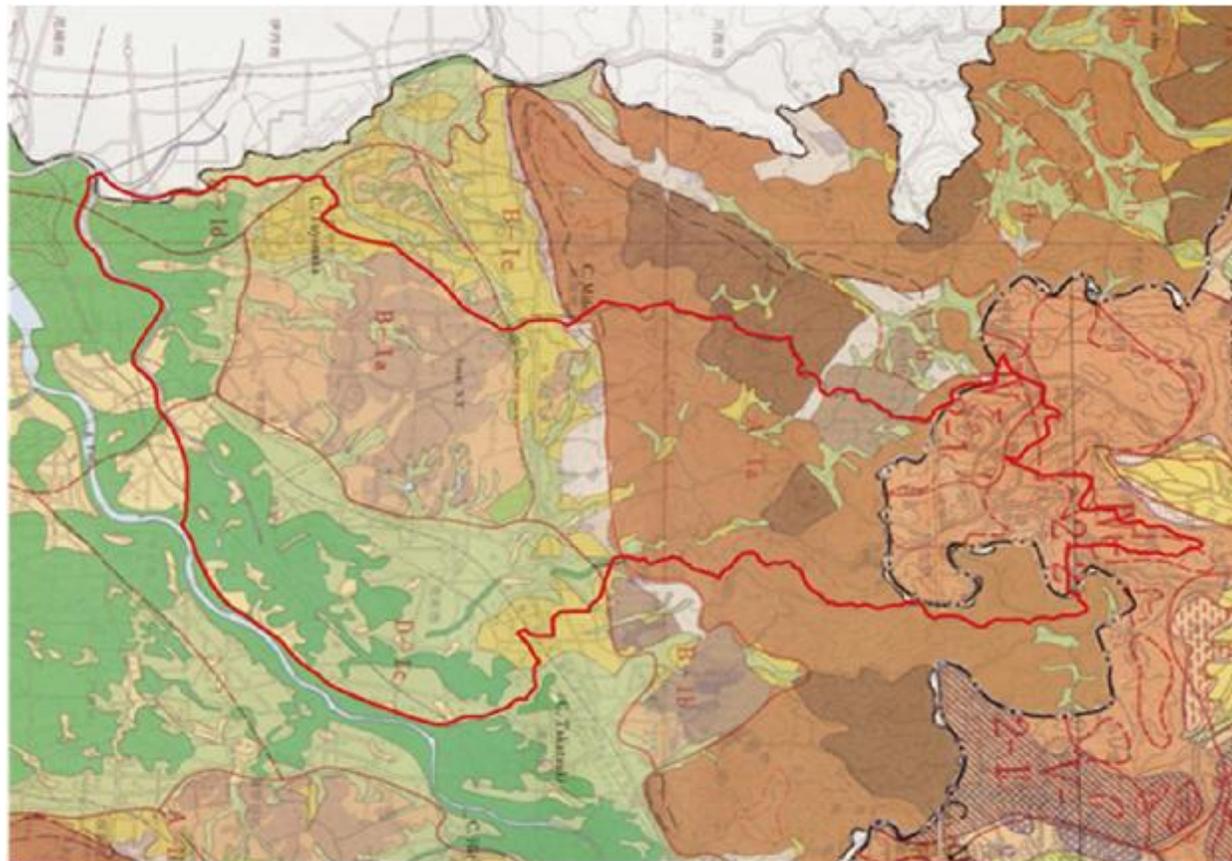


⑥ 地裁橋より下流

## 2.神崎川ブロックの特性（(1)地形・地質）

神崎川ブロックの地形は、上流の山地部は北摂山地、丘陵部は北大阪丘陵、平野部は大阪平野で構成されています。北摂山地は急峻な斜面が発達していますが、山頂部には定高性がみられ、標高は700m以下で、全体としては高原状の地形的特徴を示しています。

上流の山間部では、砂岩・泥岩の互層、泥岩及び花崗岩質岩石等がみられ、低地部には未固結堆積物の砂や泥が広く分布しています。西部の丘陵部の地質は、泥・砂・礫の互層となっています。



- 凡 例
- 大起伏山地
  - 中起伏山地
  - 小起伏山地
  - 山麓地Ⅰ
  - 山麓地Ⅱ
  - 大越伏丘陵地
  - 小越伏丘陵地
  - 段丘（高位）
  - 段丘（中・底位）
  - 扇状地性低地
  - 三角洲性低地
  - 自然堤防・砂州
  - 埋立地
  - 府県界
  - 主要分水界
  - 山地の緩斜面
  - 構造的急斜面
  - T.P. 0m 以下
  - 地すべり防止区域（建設省）
  - 地すべり防止区域（農林省）
  - 人工改変地

地形分類図

出典：土地分類図（国土庁土地局）（S51）

## 2.神崎川ブロックの特性（2）自然環境

### （1）魚類

現地調査資料が存在するのは24河川のうち神崎川、天竺川、安威川、山田川、大正川、茨木川、佐保川、勝尾寺川、川合裏川の9河川で、ここには合計8目17科51種の魚類が確認されています。河川別に見ると安威川が48種と最も多く、神崎川が5種と最も少ない状況にあります。生活史別で見ると、純淡水魚39種、回遊魚9種、汽水魚3種と淡水魚が多く、汽水魚・回遊魚が少ない状況にあります。



アカザ



アジメドジョウ



ズナガニゴイ

神崎川ブロックにおいて注目すべき水生生物

分類	種名	RLカテゴリー	確認箇所
魚類	タモロコ	大阪府RL準絶滅危惧	安威川、天竺川、勝尾寺川
	ドジョウ	大阪府RL絶滅危惧類 環境省RL情報不足	安威川、天竺川、佐保川
	シマドジョウ	大阪府RL準絶滅危惧	安威川
	スジシマドジョウ	(小型種淀川型) 大阪府RL絶滅危惧類 環境省RL絶滅危惧類 (中型種) 大阪府RL絶滅危惧類 環境省RL絶滅危惧類	安威川
	アジメドジョウ	大阪府RL絶滅危惧類 環境省RL絶滅危惧類	安威川
	ギギ	大阪府RL準絶滅危惧	安威川
	ムギツク	大阪府RL絶滅危惧類	安威川
	ズナガニゴイ	大阪府RL絶滅危惧類	安威川
	アカザ	大阪府RL絶滅危惧類 環境省RL絶滅危惧類	安威川
	メダカ	大阪府RL絶滅危惧類 環境省RL絶滅危惧類	安威川、大正川、勝尾寺川
	カジカ（大卵型）	大阪府RL絶滅危惧類 環境省RL準絶滅危惧	安威川
	オオヨシノボリ	大阪府RL情報不足	大正川、勝尾寺川

## 2.神崎川ブロックの特性（2）自然環境

### （2）底生動物

現地調査資料が存在するのは魚類と同様に9河川です。ここには合計30目116科394種の底生動物が確認されています。

### （3）両性類

河川の現地調査資料が存在するのは、安威川・佐保川であり、両生類は2目7科15種、は虫類は2目6科13種が確認されています。安威川上流や佐保川では、オオサンショウウオ（大阪府RL-絶滅危惧Ⅱ類、環境省RL絶滅危惧Ⅱ類、特別天然記念物）の生息が確認されています。

神崎川ブロックにおいて注目すべき水生生物



オオサンショウウオ

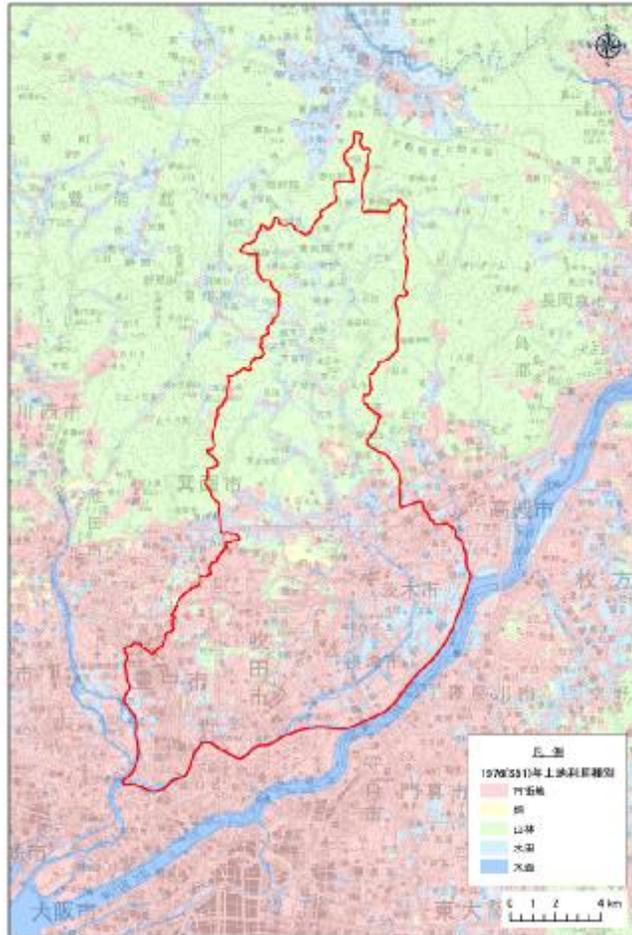
分類	種名	RLカテゴリー	確認箇所
底生動物	オオタニシ	大阪府RL絶滅危惧Ⅱ類 環境省RL準絶滅危惧	神崎川
	モノアラガイ	大阪府RL絶滅危惧Ⅱ類 環境省RL準絶滅危惧	安威川、天竺川、大正川、 勝尾寺川
	トンガリササノハガイ	大阪府RL絶滅危惧Ⅱ類 環境省RL準絶滅危惧	神崎川
	セタシジミ	大阪府RL絶滅危惧Ⅱ類 環境省RL絶滅危惧Ⅱ類	神崎川、大正川
	アオサナエ	大阪府RL準絶滅危惧	安威川
	ホンサナエ	大阪府RL絶滅危惧Ⅱ類	安威川
	ミヤマサナエ	大阪府RL絶滅危惧Ⅱ類	安威川
	キイロサナエ	大阪府RL準絶滅危惧 環境省RL準絶滅危惧	安威川

分類	種名	RLカテゴリー	確認箇所
両生類	カスミサンショウウオ	大阪府RL絶滅危惧Ⅱ類 環境省RL絶滅危惧Ⅱ類	安威川
	ヒダサンショウウオ	大阪府RL絶滅危惧Ⅱ類 環境省RL準絶滅危惧	安威川
	オオサンショウウオ	文化財保護法特別天然記念物 大阪府RL絶滅危惧Ⅱ類 環境省RL絶滅危惧Ⅱ類	安威川
	ニホンヒキガエル	大阪府RL絶滅危惧Ⅱ類	安威川
	ヤマアカガエル	大阪府RL絶滅危惧Ⅱ類	安威川
	シュレーゲルアオガエル	大阪府RL準絶滅危惧	安威川

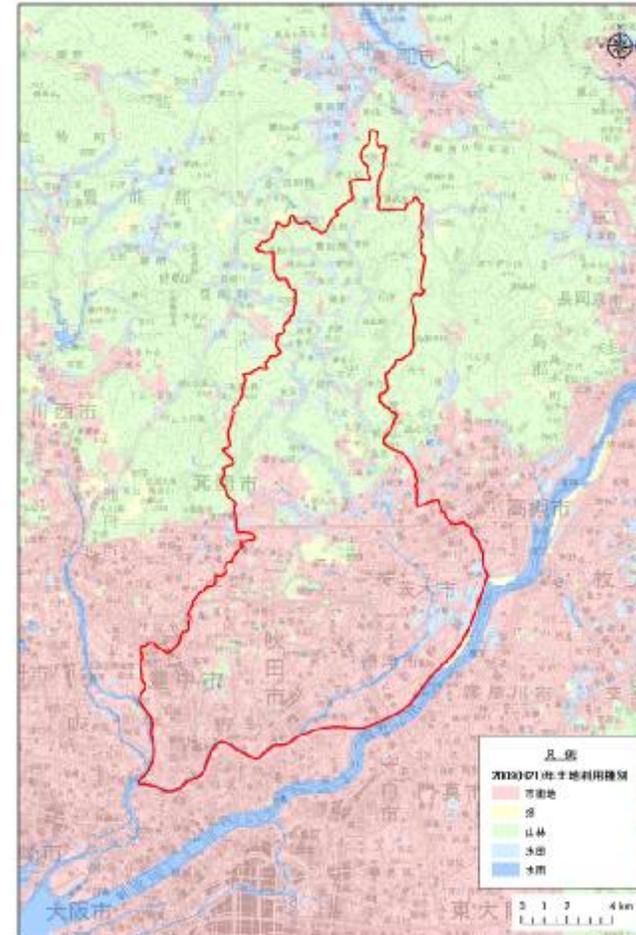
## 2.神崎川ブロックの特性（(3)土地利用）

下流の低平地は古くより市街地や農地が広がっていましたが、現在ではそのほとんどが宅地化しています。丘陵部はかつて山地丘陵であった高標高の範囲まで宅地やゴルフ場などの開発が進んでいます。上流部には山地が大きく広がり、河川沿い等の一部に平地や集落等が分布しています。

土地利用図 昭和51年（1976年）



土地利用図 平成21年（2009年）

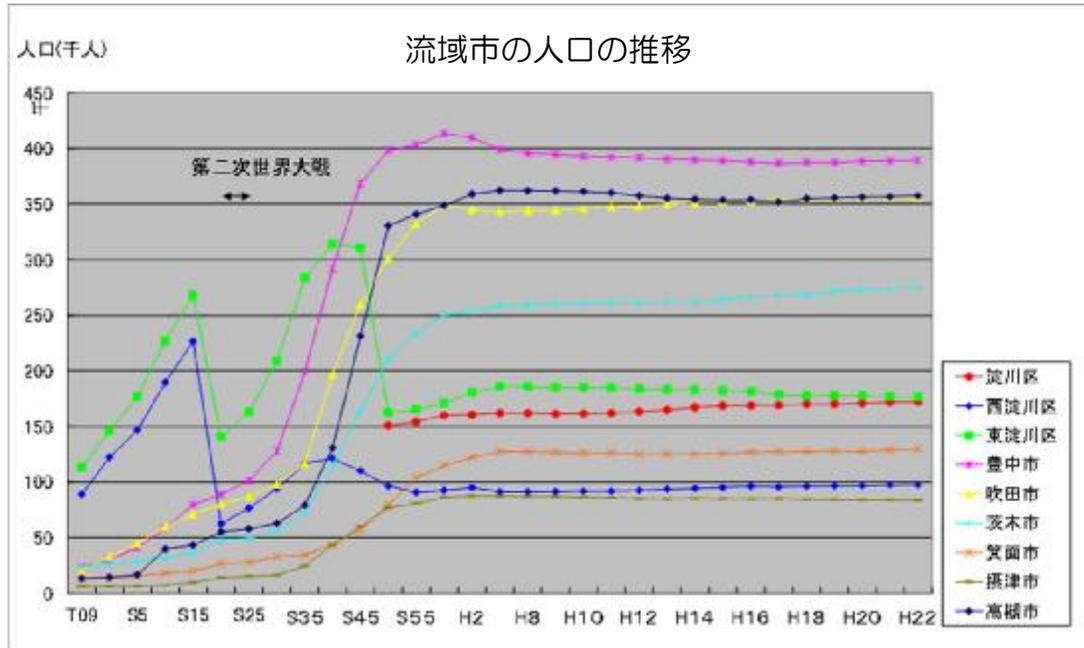


出典：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ  
（国土交通省国土地理院）より作成

## 2.神崎川ブロックの特性（(4)社会特性（人口））

流域関係市の人口（平成22年国勢調査）は約204万人（大阪市は東淀川区、淀川区、西淀川区のみ）です。流域関連市の人口は昭和45年までは急増しており、特に昭和35年から行われた千里ニュータウン開発により摂津市、吹田市および豊中市の人口は大きく増加しました。その後、緩やかな増加をつづけ、平成2年の国勢調査において200万人を越えました。その後、流域関係市の人口はあまり変化がみられませんが、少子、高齢化などの影響によりその構成は変化してきました。

各市別に平成17年と22年の国勢調査を比較すると、淀川区・西淀川区・豊中市・吹田市・茨木市・箕面市・高槻市は1～3%の増加、東淀川区・摂津市は1～2%の減少が見られます。

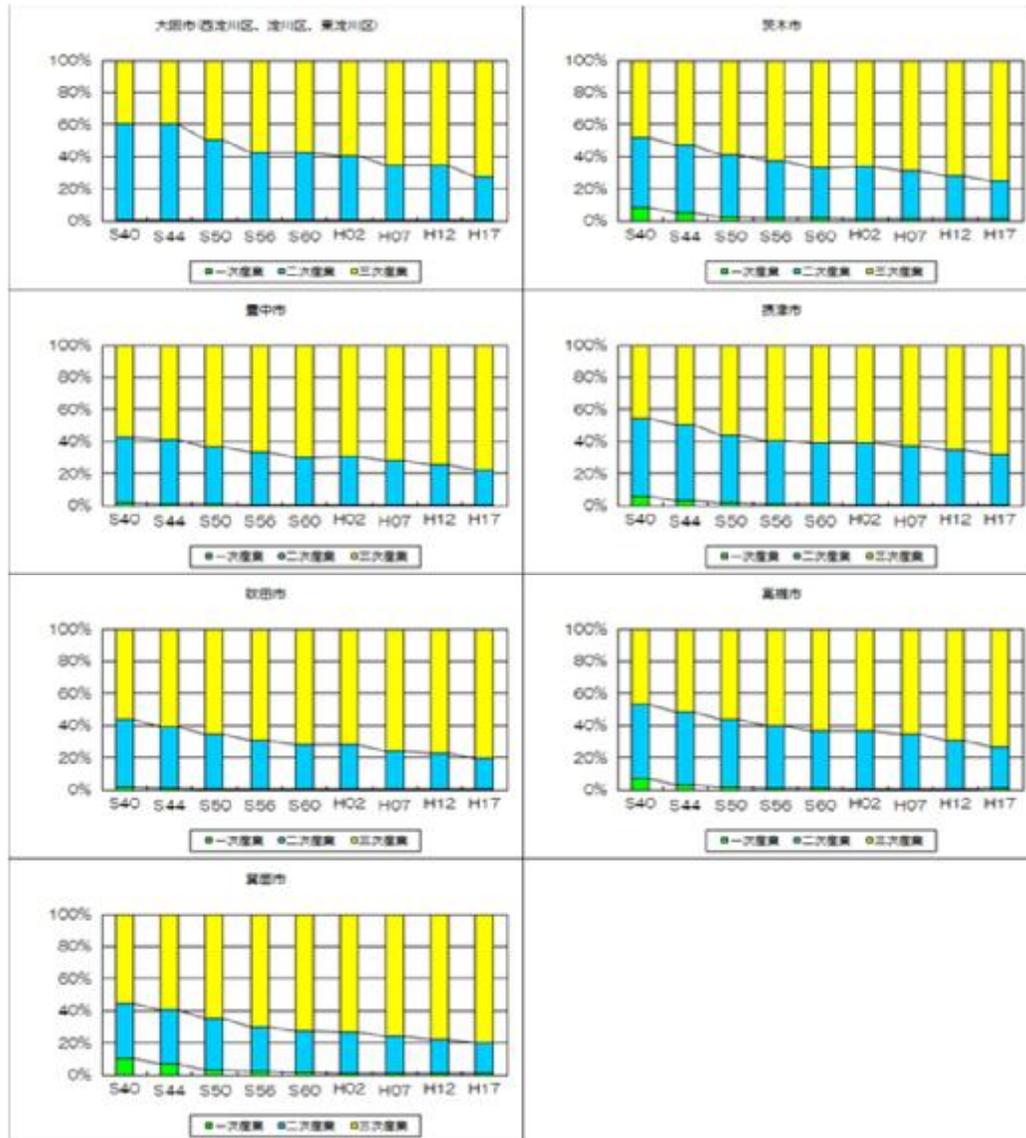


流域市の人口

市	平成17年 (人)	平成22年 (人)	人口増加率 %
大阪市	2,628,776	2,665,314	+1
淀川区	169,215	172,078	+2
西淀川区	95,621	97,504	+2
東淀川区	178,357	176,585	-1
3区合計	443,193	446,167	+1
豊中市	386,633	389,341	+1
吹田市	353,853	355,798	+1
箕面市	127,132	129,895	+2
茨木市	267,976	274,822	+3
摂津市	84,997	83,720	-2
高槻市	351,803	357,359	+2
6市3区の合計	2,015,587	2,037,102	+1
大阪府	8,817,010	8,865,245	+1

## 2.神崎川ブロックの特性（(5)社会特性（産業））

関連市の就業人口数の推移は、第3次産業が増加傾向を示す一方、第1次、2次産業は横這いかやや減少する傾向にあります。また、各市の産業別就業者比率をみると、いずれも第3次産業が大部分を占めています。



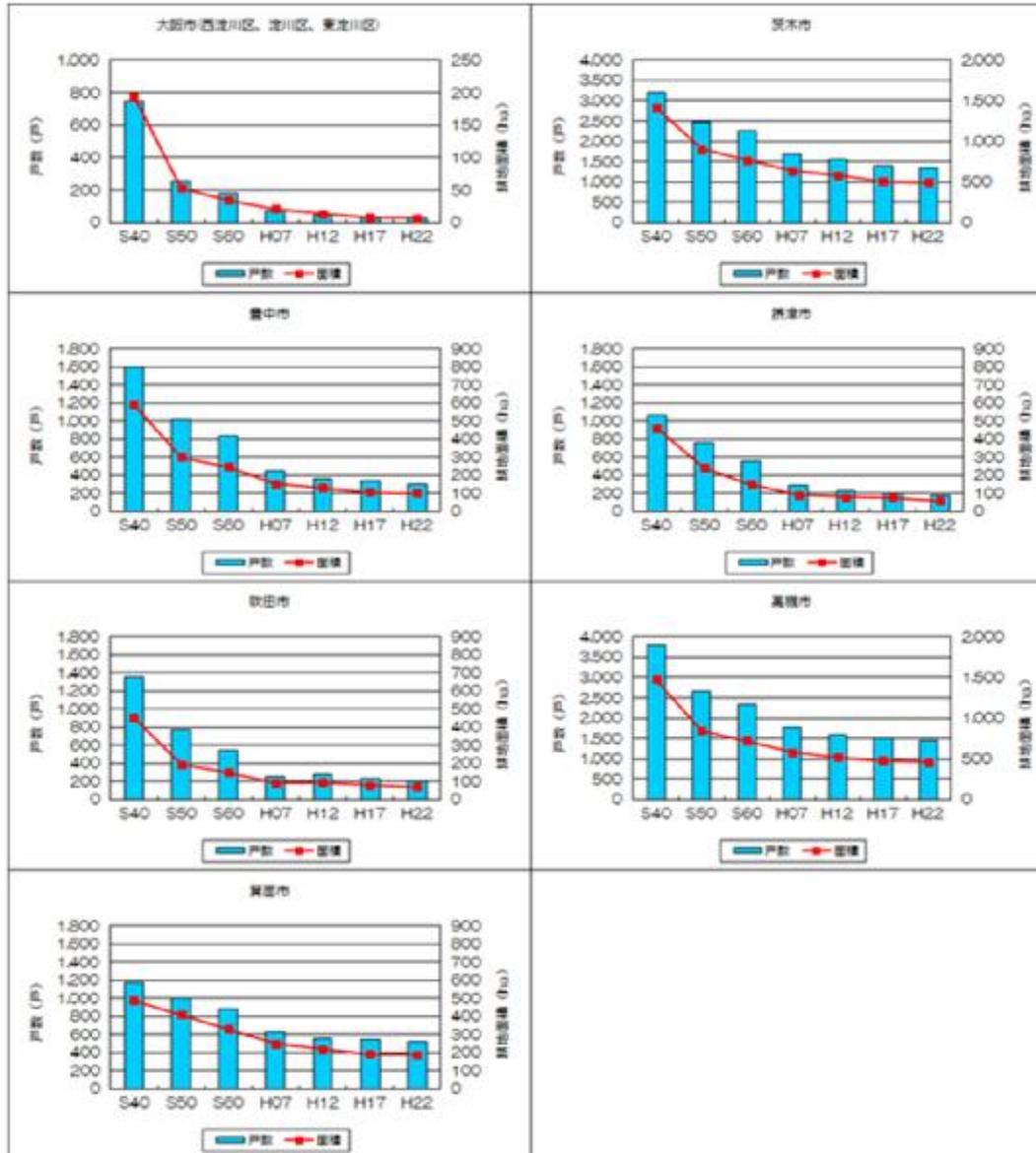
### 産業大分類別就業人口の推移

一次産業：農林漁業  
 二次産業：鉱業、建設業、製造業  
 三次産業：電気・ガス・熱供給・水道業、  
 運輸・通信業、卸売・小売業・  
 飲食店、金融・保険業、不動産  
 ...

出典：大阪府統計資料、大阪市統計書

## 2.神崎川ブロックの特性（(6)社会特性（農業））

農業については、農家戸数、経営耕地面積ともに減少傾向にあります。



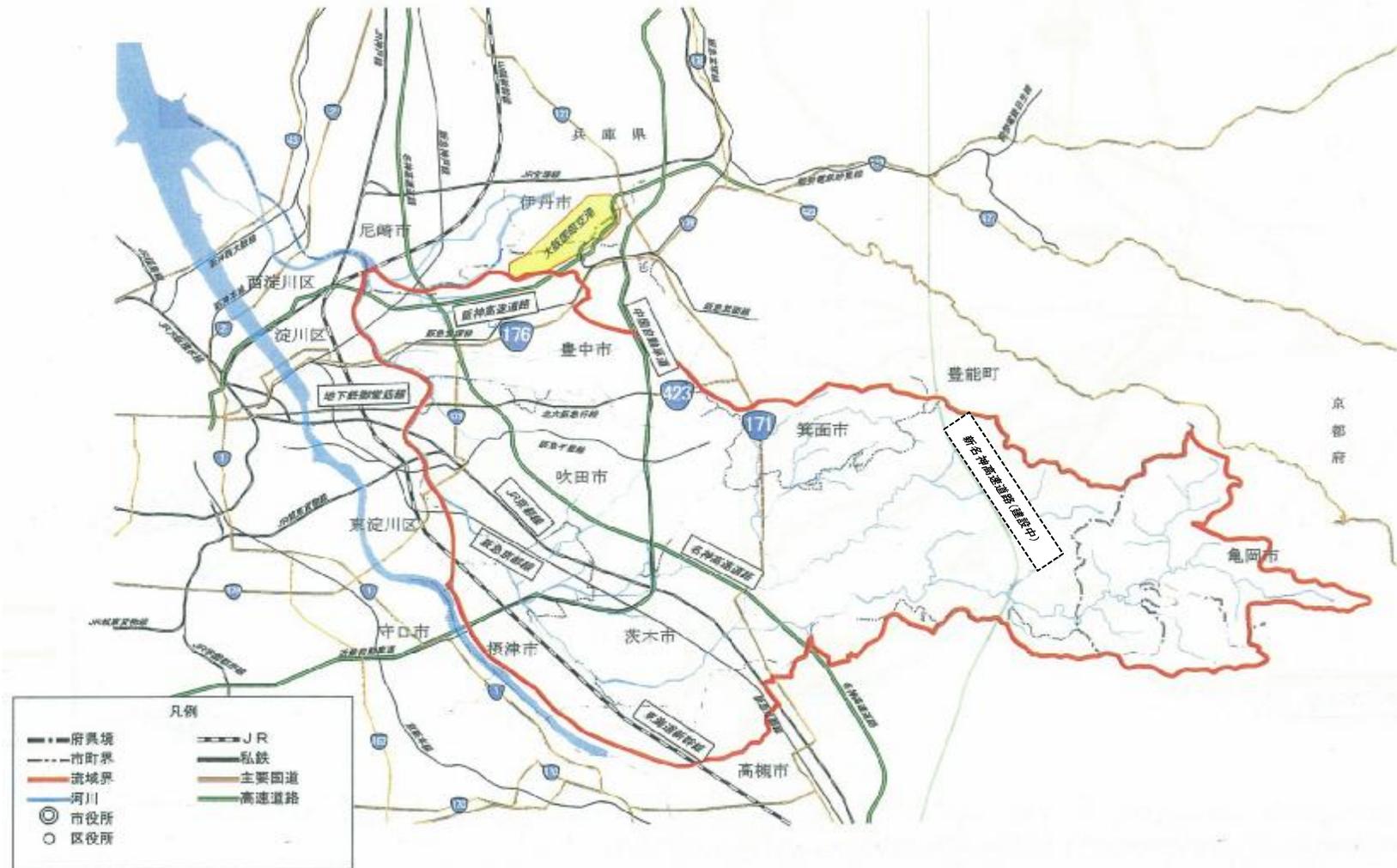
農業戸数、  
経営耕地面積の推移

出典：大阪府統計資料、大阪市統計書

## 2.神崎川ブロックの特性（(7)社会特性（交通））

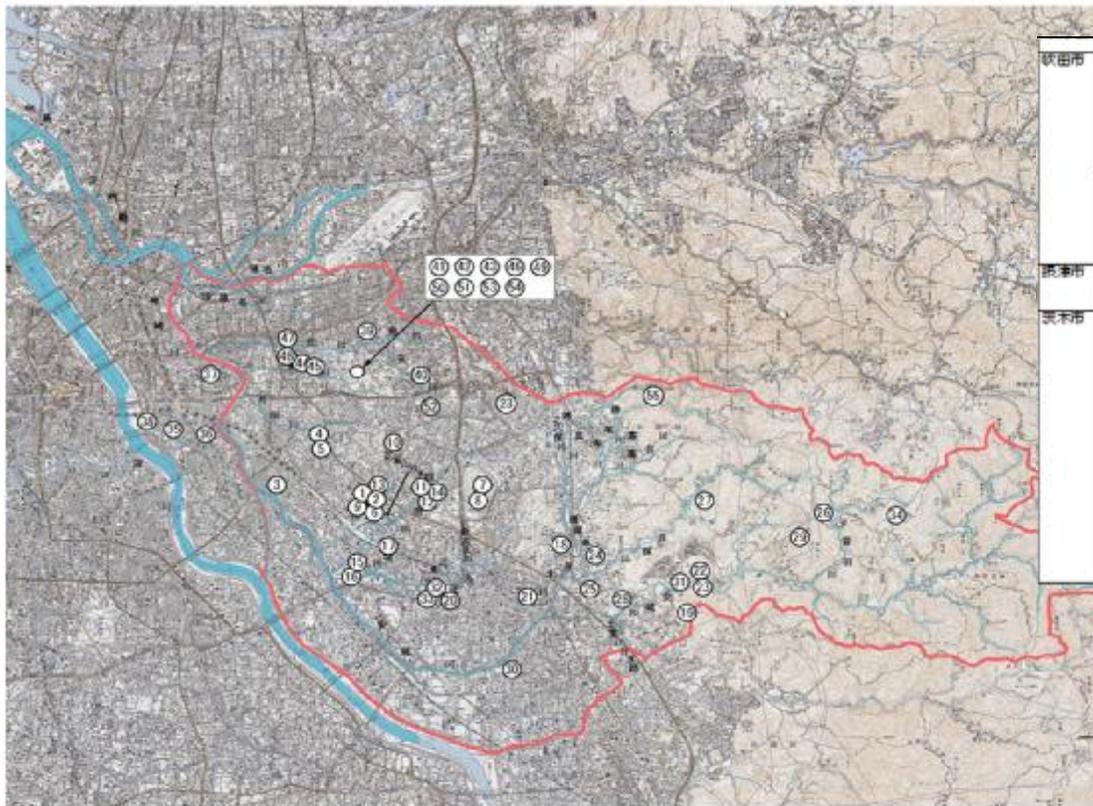
流域には我が国の国土軸となる重要な交通網が整備されています。大阪市中心部と京阪神を結び阪神高速道路、さらには首都圏、中京圏、中四国方面へアクセスする名神高速道路、中国自動車道および近畿自動車道等の道路網をはじめ、都市基盤である一般国道（国道171号、国道176号、国道423号など）及び府道（大阪中央環状線など）が整備されています。

鉄道網については、東海道・山陽新幹線、JR京都線、阪急京都線、阪急神戸線、地下鉄御堂筋線などが通っています。



## 2.神崎川ブロックの特性（(8)社会特性（文化財））

神崎川ブロック内には、52箇所もの文化財が点在します。4～5世紀末にかけて形成された桜塚古墳群（国史跡ほか）をはじめ、平安京造営の際に宮殿の瓦を大量に生産したとされる吉志部瓦窯跡や七尾瓦窯跡があり当時は窯業地帯であったことを示しています。さらに時の権力者によって建立された寺院や神社も数多くあります。また江戸時代には京都から西宮に通じる西国街道には郡山宿本陣があり、1721年に再建された建物が今も残っています。また、茨木の山地部の干提寺や下音羽は、「隠れキリシタンの里」として有名であり、茨木市干提寺にあるキリシタン遺物史料館では、当時の信仰の証拠となる隠れキリシタンの遺物を展示しています。



流域内の文化財

市町村	種別	№	名称	市町村	種別	№	名称
吹田市	史跡	1	吉志部瓦窯跡	大阪市	史跡	35	桃生屋敷村豊崎陣屋跡
	史跡	2	七尾瓦窯跡		史跡	36	豊崎陣屋跡のくす
	史文	3	橋本豊色絵巻遺蹟	史文	37	高刀印	
	史跡	4	西行	史文	38	九尾野古歌	
	史跡	5	西行遺跡山手跡	豊中市	史跡	39	石谷古墳群 大塚古墳 南大平塚古墳
	史跡	6	西行遺跡山手跡		史文	40	石谷三雲寺地蔵印塔
	史文	7	西行遺跡山手跡		史文	41	日守家法帖
	史文	8	西行遺跡山手跡		史跡	42	山田家法帖
	史跡	9	西行遺跡山手跡		史跡	43	日守家法帖
	史文	10	木通瓦窯跡		史跡	44	赤土山地区の山人書院跡
	史跡	11	安養寺本堂		史文	45	赤土山遺蹟
	史跡	12	木通瓦窯跡		史文	46	赤土山遺蹟
	史跡	13	木通瓦窯跡		史文	47	赤土山遺蹟
	史跡	14	木通瓦窯跡		摂津市	史跡	48
史跡	15	赤土山遺蹟	史文	49		赤土山遺蹟	
史跡	16	赤土山遺蹟	史跡	50		赤土山遺蹟	
史文	17	赤土山遺蹟	史跡	51		赤土山遺蹟	
史跡	18	赤土山遺蹟	史跡	52		赤土山遺蹟	
史文	19	赤土山遺蹟	史跡	53		赤土山遺蹟	
史文	20	赤土山遺蹟	史跡	54		赤土山遺蹟	
史跡	21	赤土山遺蹟	高槻市	史跡		55	赤土山遺蹟
史跡	22	赤土山遺蹟					
史跡	23	赤土山遺蹟					
史跡	24	赤土山遺蹟					
史文	25	赤土山遺蹟					
史跡	26	赤土山遺蹟					
史文	27	赤土山遺蹟					
史跡	28	赤土山遺蹟					
史文	29	赤土山遺蹟					
史跡	30	赤土山遺蹟					

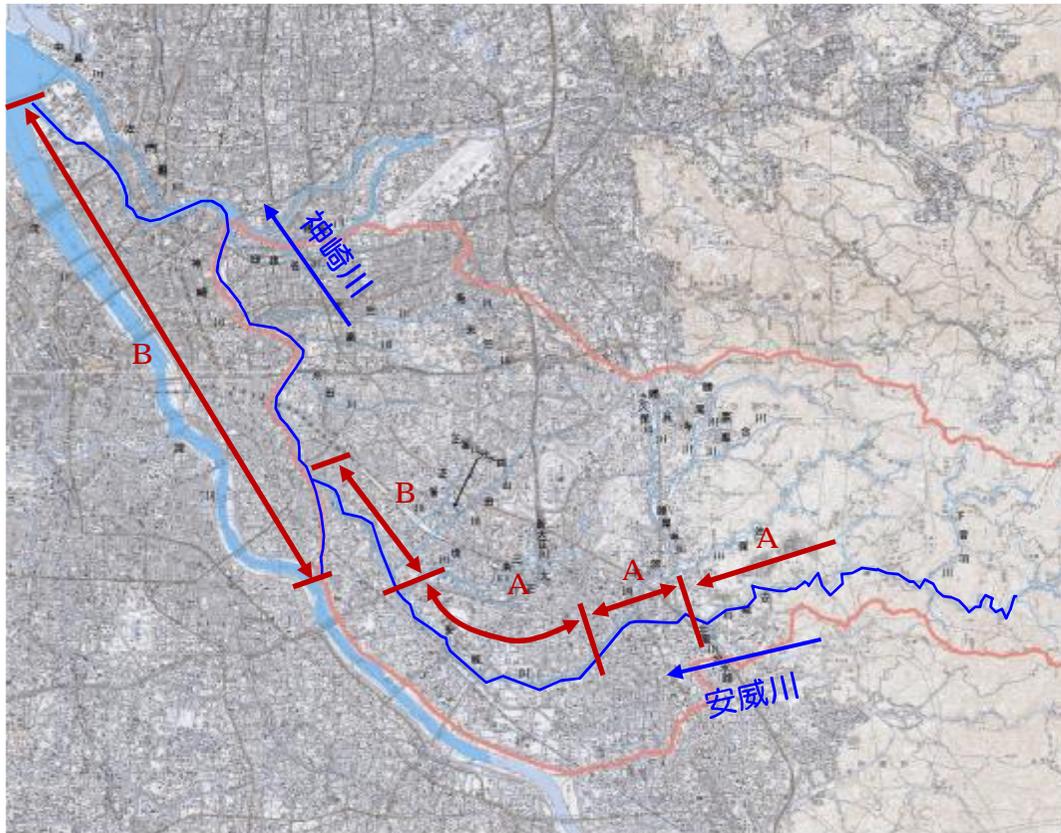
出典：平成6年度大阪府教育委員会資料、平成7年度高槻市教育委員会資料  
 「豊中の文化財」豊中市教育委員会  
 茨木市統計書H12年度版  
 吹田市統計書H12年度版  
 大阪府文化財分布図H12年度 摂津市教育委員会

## 2.神崎川ブロックの特性（(9)水環境（水質））

神崎川では昭和50年以前には環境基準（BOD値）を大きく越えていましたが、その後改善され、平成以降はB類型の環境基準値である3.0mg/L前後となっており、概ね5.0mg/L以下で保たれています。

安威川では、A類型・B類型の環境基準が設定されています。環境基準点におけるBOD値の推移をみると、近年においてすべての地点で環境基準を達成しています。

神崎川の水質観測地点と測定結果



河川名	観測地点	BOD75%※ (mg/L)	類型指定
		H25	
神崎川	千船橋	1.2	B
	神崎橋	1.6	B
	新三国橋	1.8	B
	小松橋	2.4	B
左門殿川	辰巳橋	2.3	B
糸田川	神崎川合流点	3.3	-
高川	神崎川合流点	2.3	-
天竺川	神崎川合流点	1.0	-
番田井路	玉川橋	3.4	-
安威川	新京阪橋	0.7	B
	宮鳥橋	1.1	A
	千歳橋	1.4	A
	桑ノ原橋	1.6	A
茨木川	安威川合流点	1.1	A
大正川	安威川合流点	1.9	A
山田川	安威川合流点	5.3	-
正雀川	安威川合流点	2.4	-
勝尾寺川	中河原橋	1.3	A

\*環境基準（BOD,単位mg/L） A類型：2.0、B類型：3.0  
 ※ BODが1年間の内、水質の良いほうから75%となる値であり、BODに係る環境基準の指標となっています。数値は暫定値。

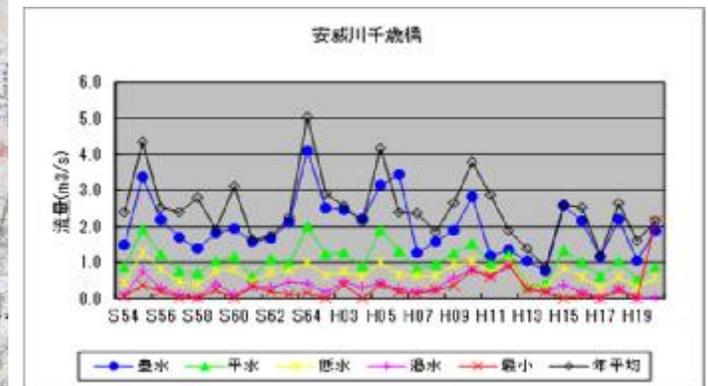
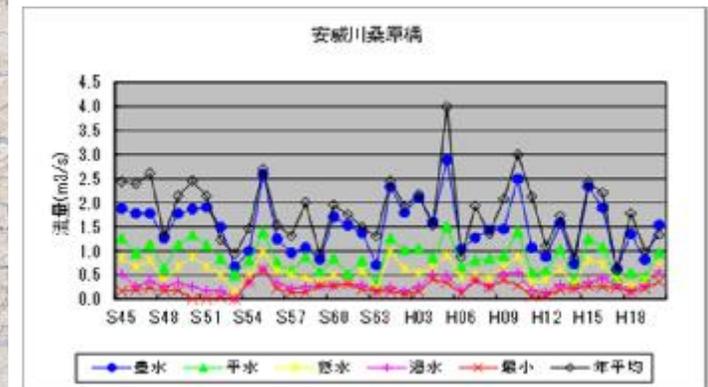
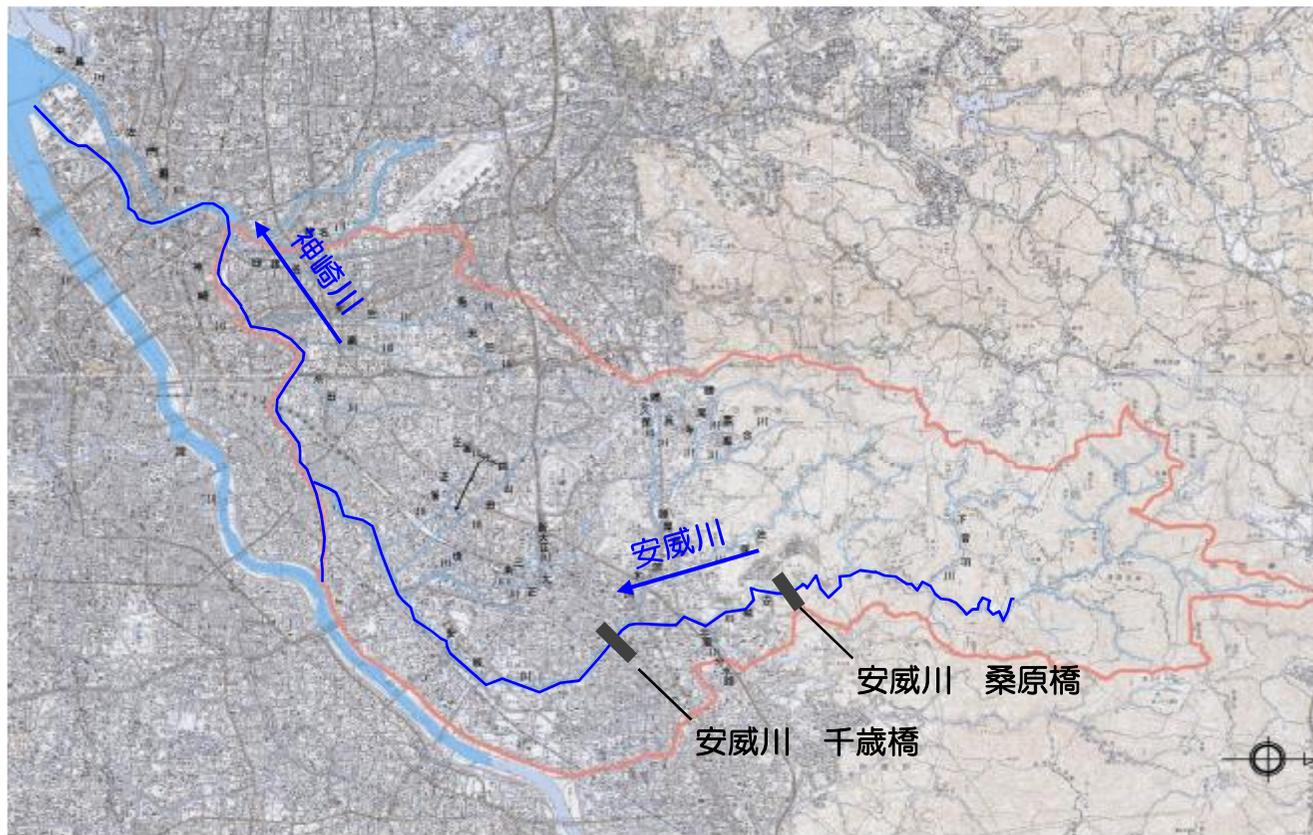


## 2.神崎川ブロックの特性（(10)水環境（水量））

安威川の桑原橋、千歳橋では経年的に流量が計測されています。平水流量の比流量は桑原橋地点で $0.016\text{m}^3/\text{s}/\text{km}^2$ 、千歳橋地点で $0.011\text{m}^3/\text{s}/\text{km}^2$ となります。

神崎川ブロックにおける近年30年（昭和54年～平成20年）の流況表

	河川名	地点名	流域面積 $\text{km}^2$	豊水 流量 $\text{m}^3/\text{s}$	平水 流量 $\text{m}^3/\text{s}$	低水 流量 $\text{m}^3/\text{s}$	渇水 流量 $\text{m}^3/\text{s}$	平水流量/ 流域面積 $\text{m}^3/\text{s}/\text{km}^2$
神崎川ブロック	安威川	桑原橋	52.2	1.48	0.84	0.56	0.32	0.016
		千歳橋	96.9	1.91	1.02	0.64	0.27	0.011

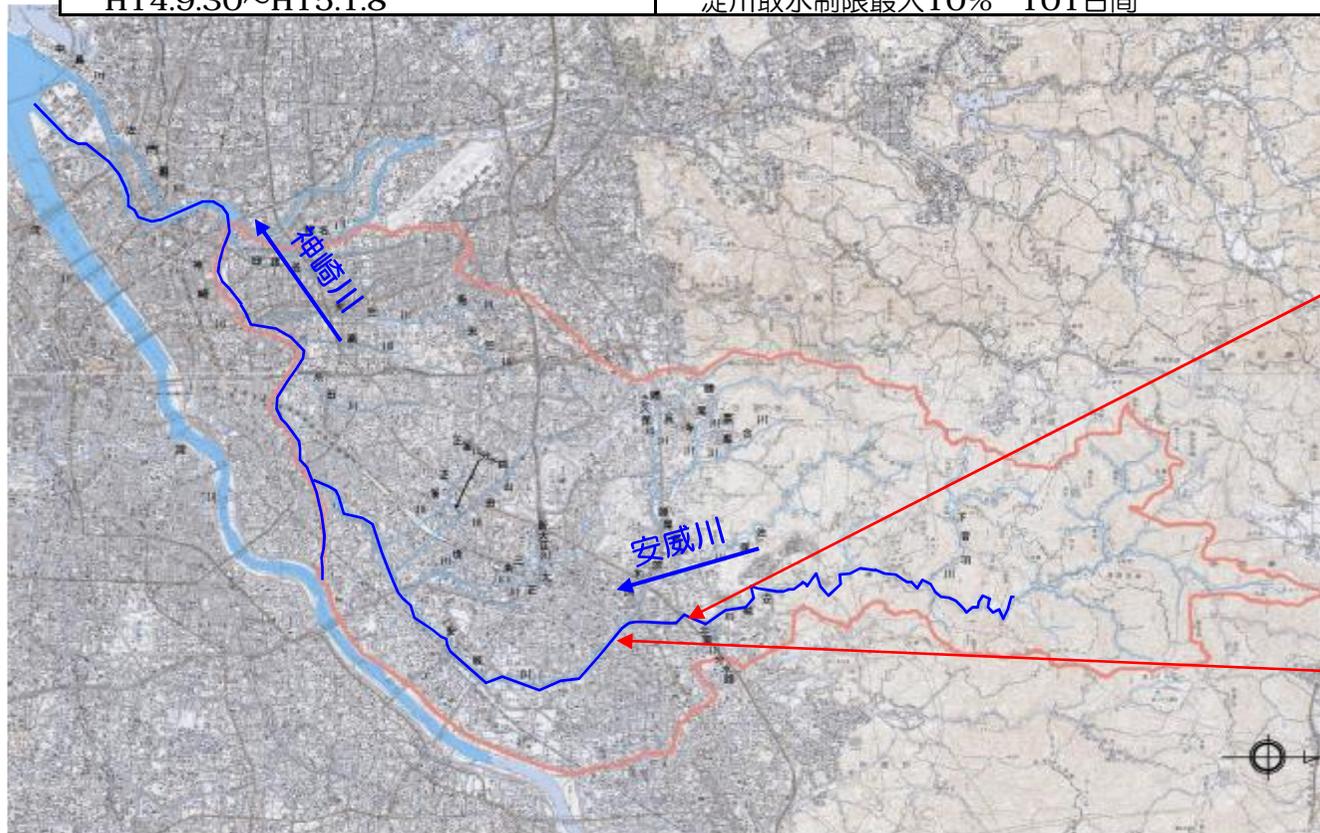


## 2.神崎川ブロックの特性（(10)水環境（水量））

河川の水利用においては、平成6年や平成12年をはじめとし、過去に幾度となく多くの渇水を経験しており、渇水による影響により瀬切れが発生しています。

神崎川ブロックにおける利水被害

発生期間	取水制限等の状況
S53.9.1～S54.2.8	淀川取水制限最大10% 134日間
S59.10.8～S60.3.12	淀川取水制限最大20% 156日間
S61.10.17～S62.2.10	淀川取水制限最大20% 117日間
H6.8.22～H6.10.4	淀川取水制限最大20% 44日間
H12.9.9～H12.9.10	淀川取水制限最大10% 2日間
H14.9.30～H15.1.8	淀川取水制限最大10% 101日間



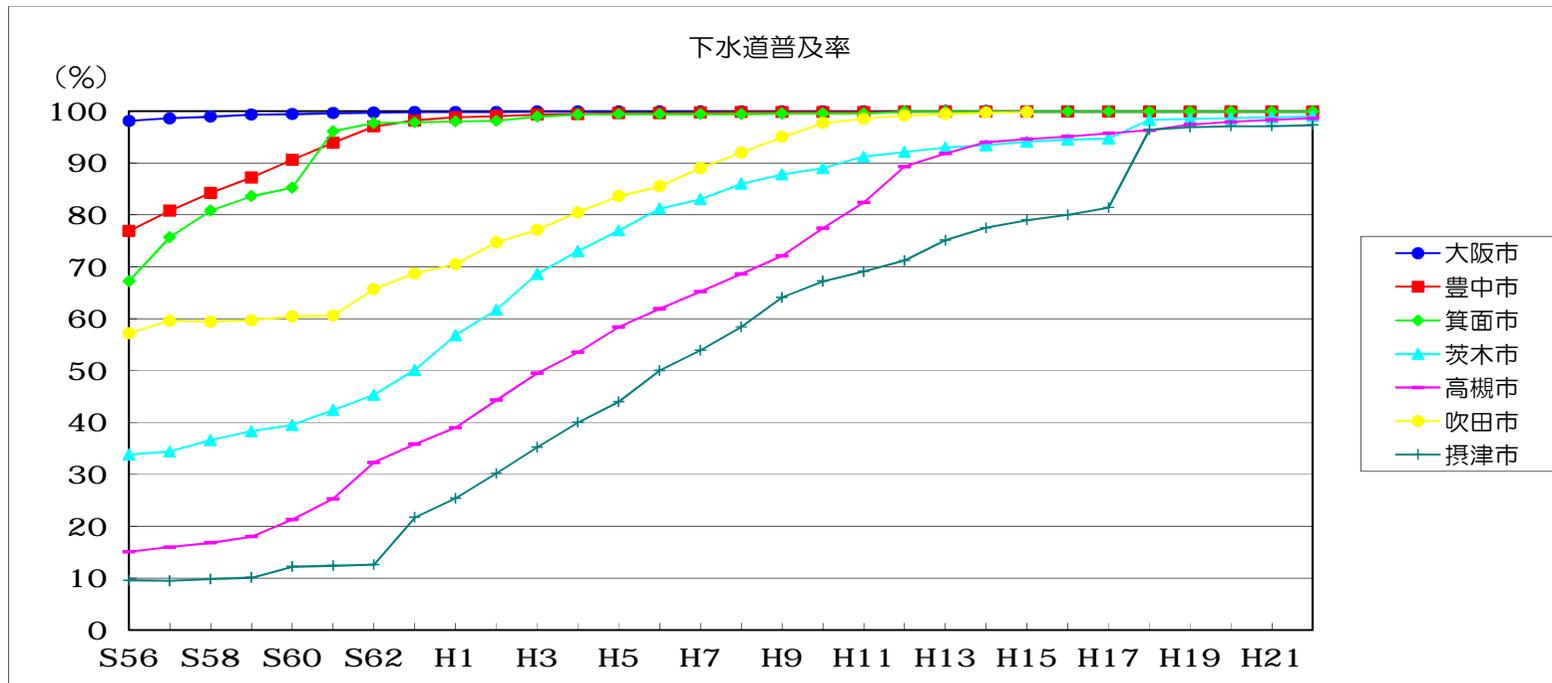
平成6年（国道171号上流地点）



平成12年（千歳橋上流地点）

## 2.神崎川ブロックの特性（(1)水環境（下水道整備））

神崎川ブロックの関連市の下水道普及率（汚水）は、平成22年度末時点で90%を越えており高い整備水準を示しています。



平成22年度末時点の下水道普及率

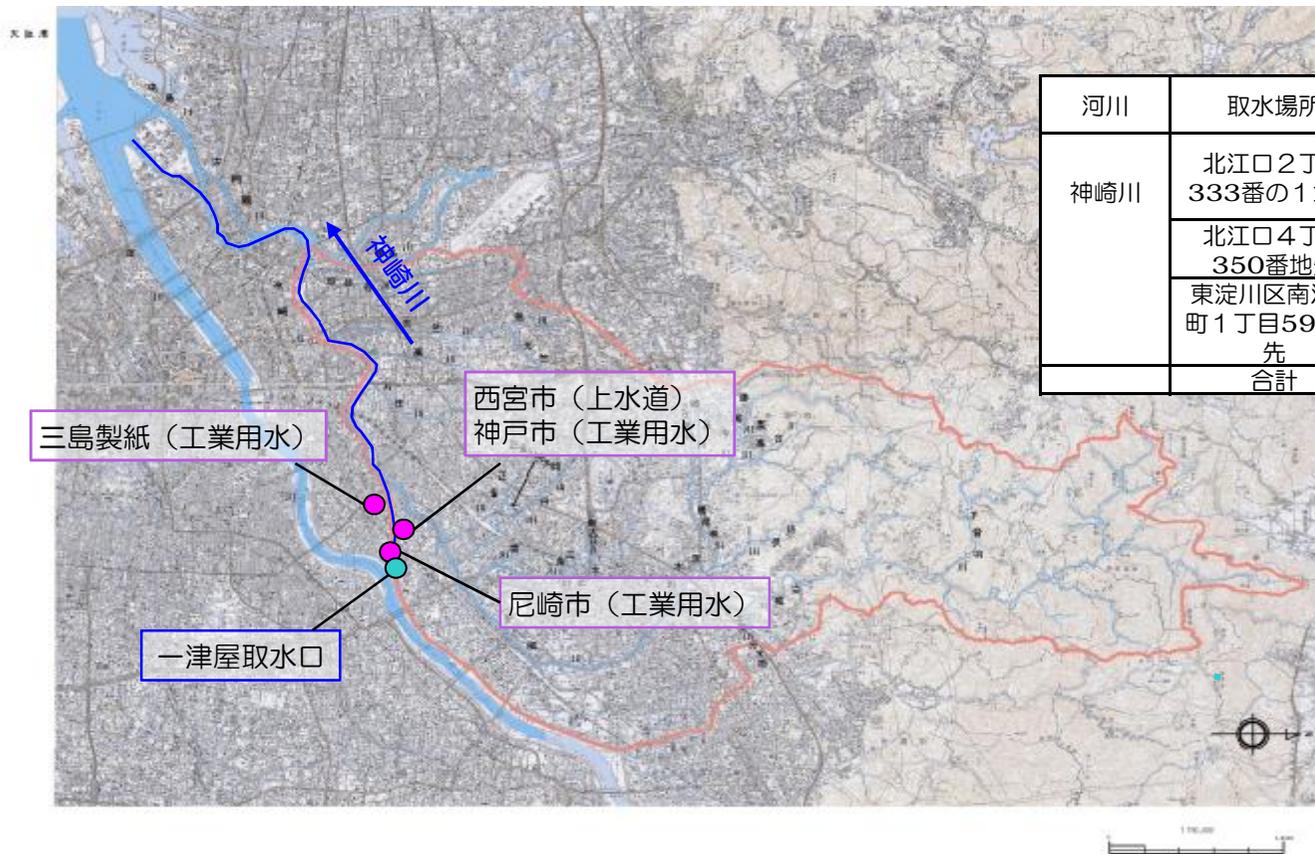
市	下水道普及人口	下水道普及率	市	下水道普及人口	下水道普及率
大阪市	2,657,394人	99.9%	摂津市	83,962人	97.3%
豊中市	395,024人	99.9%	箕面市	129,862人	99.9%
茨木市	274,609人	99.0%	高槻市	358,183人	98.6%
吹田市	352,173人	99.9%			

出典：大阪府下水道統計  
平成22年度末時点の下水道普及率

## 2.神崎川ブロックの特性（(1 2)水利用）

神崎川は淀川右岸・一津屋取水口から分派しています。この分派により平常時において河川浄化用として10m<sup>3</sup>/sの水が神崎川に供給されています。

河川の水利用においては、神崎川では工業用水および上水として利用されており、安威川流域等の上流域では、主に田畑などへのかんがい用水として利用されています。



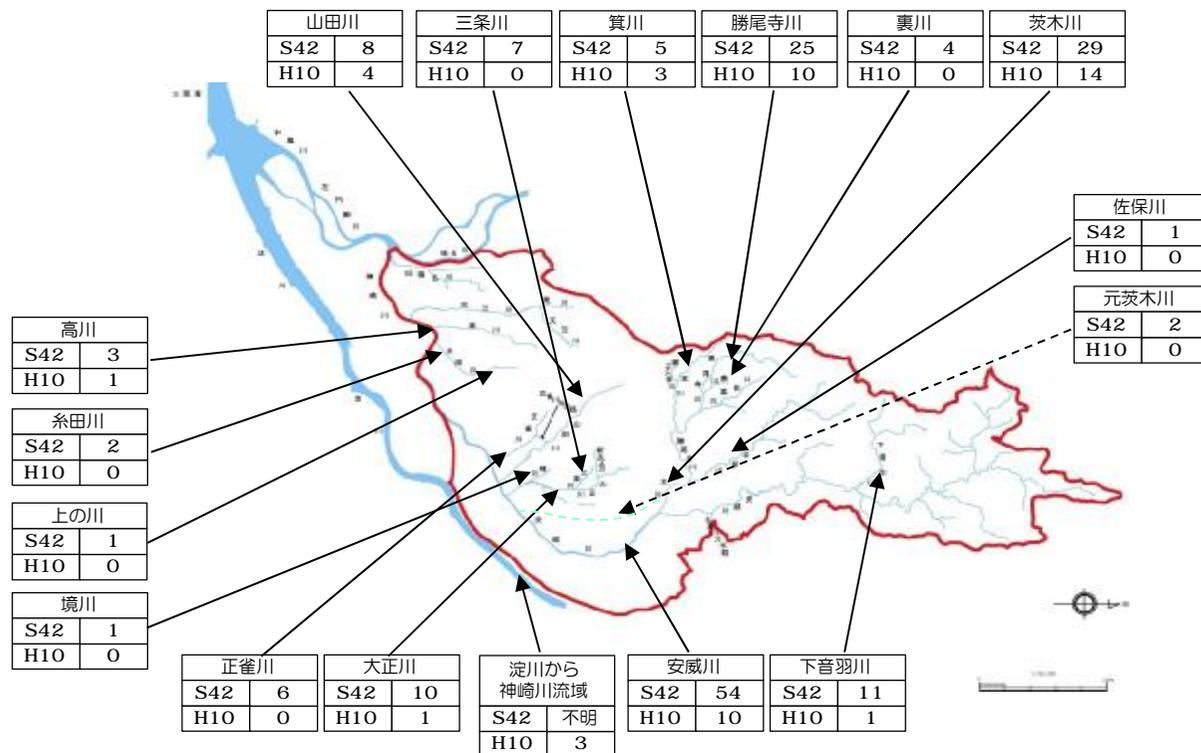
神崎川ブロックの許可水利権一覧

河川	取水場所	取水者 届出者	種類	取水量 (m <sup>3</sup> /s)	備考
神崎川	北江口2丁目 333番の1地先	西宮市	上水道	0.136	淀川に水利権が 存在 (国許可)
		神戸市	工業用水	1.323	
	北江口4丁目 350番地先	尼崎市	工業用水	1.762	
	東淀川区南江口 町1丁目59番地 先	三島製紙	工業用水	0.045	
	合計			3.266	



## 2.神崎川ブロックの特性（(1 2)水利用）

河川法施行に伴い神崎川ブロックの慣行水利権の届出調査が昭和42年に行われました。また平成10年に農業用水実態調査が行われました。昭和42年に169の届け出がありましたが、平成10年の調査では50の取水実績がありました。取水堰の統廃合や農地から宅地等への転用などにより現在の取水実績になったと考えられます。

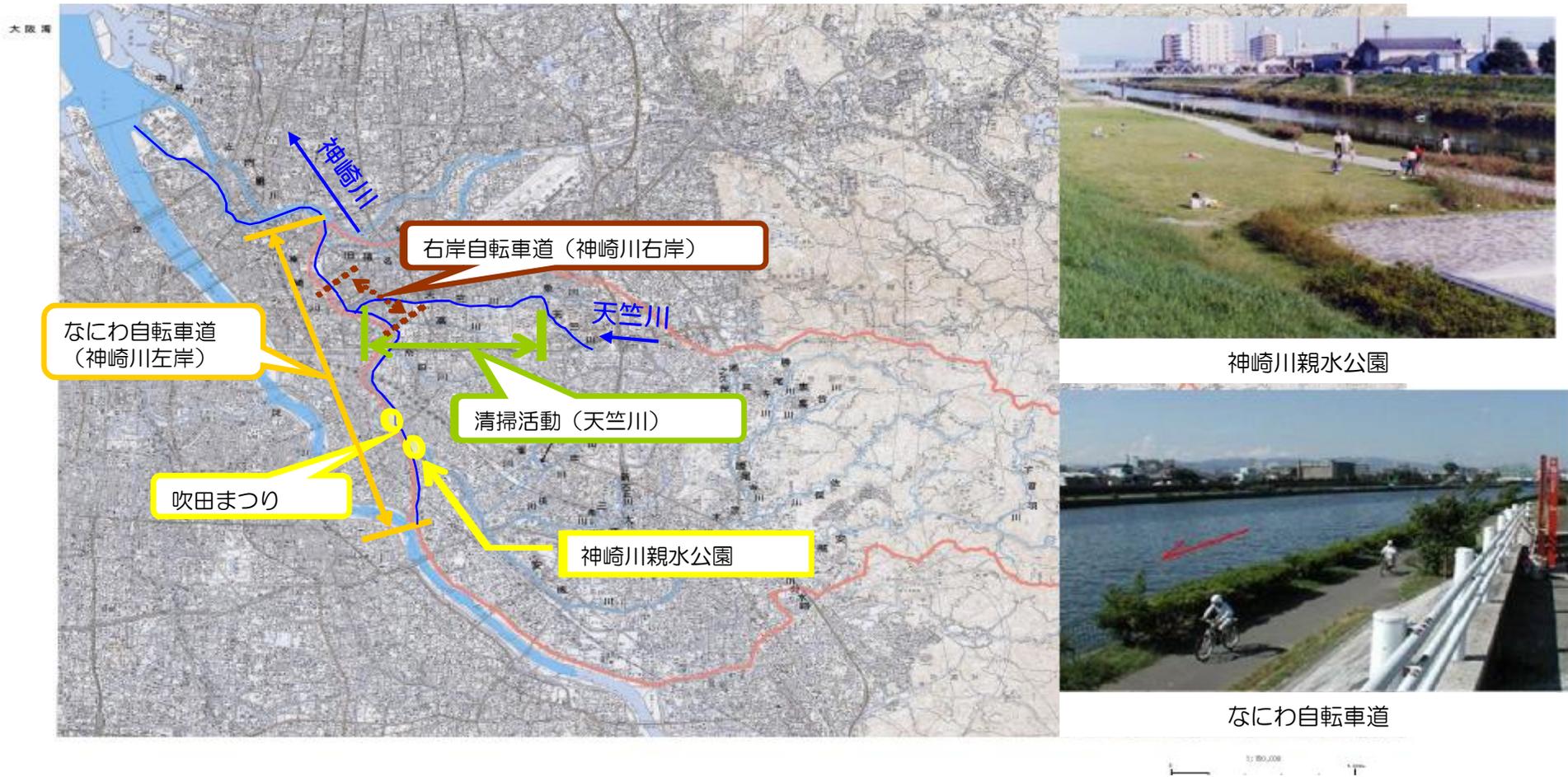


届け出件数と取水実績

河川名	昭和42年	平成10年
安威川	54	13
糸田川	2	0
上の川	1	0
高川	3	1
正雀川	6	0
大正川	10	1
山田川	8	4
三条川	7	0
境川	1	0
茨木川	29	14
元茨木川	2	0
佐保川	1	0
勝尾寺川	25	10
裏川	4	0
箕川	5	3
下音羽川	11	1
淀川から神崎川 流域へ	不明	3
合計	169	50

## 2.神崎川ブロックの特性（1 3河川空間利用）

河川の空間利用において、神崎川では「ネオ・リバープラン」（平成7年）に基づき高水敷には、なにわ自転車道等が整備されており、散歩やジョギングなどを楽しむ人々が見られます。また、吹田市の高浜橋から吹田橋付近では7月末頃に吹田まつりが行われています。全体的に多目的広場などの親水公園が数多くあり、都市域における貴重なオープンスペースとして豊かな市民生活を実現するため広く利用されています。



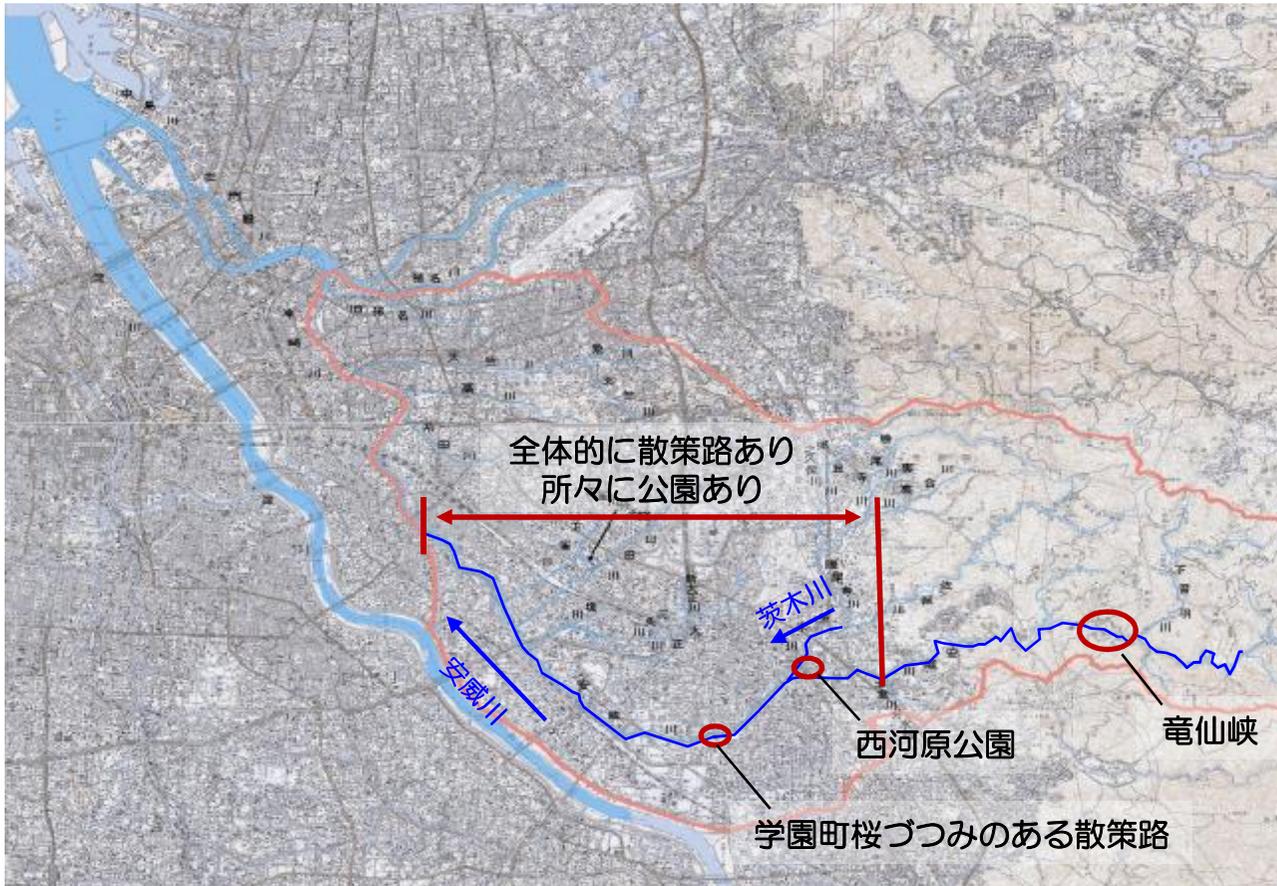
## 2.神崎川ブロックの特性（(1 3)河川空間利用）

神崎川では、西大阪治水事務所が主流となって、合計5箇所の防災船着場が整備されています。神崎川下流左岸（城島橋下流左岸）の船着場は、上流船着場への緊急物資積み替え基地の機能としても役割を担い、大型の貨物船も接岸できます。



## 2.猪名川下流ブロックの特性（(1 3)河川空間利用）

安威川中下流や大正川下流においても、「水と緑の回廊計画」（昭和61年）に基づく、高水敷整備や桜堤整備が行われており、散歩やジョギングなどを楽しむ人々が見られます。安威川上流や下音羽川の安威川合流点付近では、内水面漁業権が設定され、漁業組合により、アユ・マスが放流されて、遊漁が行われています。



西河原公園



学園町桜つつみのある散策路

## 2.神崎川ブロックの特性（(14)アドプト・リバー・プログラム）

神崎川ブロックでは、20件のアドプト・リバープログラムに登録されており、各団体により河川の清掃などが行われています。

番号	名称	団体名	認証 年月日	番号	名称	団体名	認証 年月日
1	アドプト・リバー・佐保川	佐保自治会	H13.7.3	11	アドプト・リバー・天竺川デゾエブレ	デゾエブレ	H18.9.21
2	アドプト・リバー・勝尾寺川	勝尾寺川ほたるの会	H15.3.18	12	アドプト・リバー・伽藍堂（ガランド）	夢をひらくせつつ市民の会	H18.10.18
3	アドプト・リバー・南正雀	以和貴	H15.3.19	13	アドプト・リバー・かわその	川園町連合自治会	H19.2.11
4	アドプト・リバー・下穂積三丁目梅	下穂積三丁目梅自治会	H15.12.7	14	アドプト・リバー・糸田川	吹田市南金田自治会	H21.5.1
5	アドプト・リバー・大正川	大正川を守る会 和亀保護の会	H16.7.25	15	アドプト・リバー・高川/寺内1丁目	高川・桜の会	H21.5.21
6	アドプト・リバー・太田	太田中学校区青少年健全育成 運動協議会	H16.10.1	16	アドプト・リバー・天竺川ホテルの会	天竺川にホテルを飛ばそう 会	H21.10.13
7	アドプト・リバー・井高野	安威川花と緑の会	H17.6.9	17	アドプト・リバー・旭丘 花の会	旭丘 花の会	H22.6.14
8	アドプト・リバー・安威川東	あいクリーンクラブ 橋の内自治会外4団体 東雲さわやかクリーンクラブ	H17.7.21	18	アドプト・リバー・摂津大正川	(株)吉寿屋 NPO法人 ガイアライン	H23.12.22
9	アドプト・リバー・箕川	箕川・水とみどりの会	H17.9.28	19	アドプト・リバー・西田中	片桐ドリームクラブ	H24.1.12
10	アドプト・リバー・箕川	箕川をきれいにする会	H18.6.25	20	アドプト・リバー・豊一糸田川	豊一地区まちづくり協議会	H24.2.17

### 3.治水事業の概要（(1)浸水被害）

神崎川ブロックでは、これまで多くの被害が発生しています。

過去の主な洪水の記録（昭和以降）

発生年月日	西暦	災害原因	主な概要
昭和7年 7月8日	1932		茨木川が田中で十数間にわたって堤防決壊。人家が多数浸水。田畑の被害は数百町歩。
昭和9年 7月	1934		安威川筋では十日市・馬場・目垣・十一の堤、茨木川筋では田中・沢良宜西および同東の堤防が決壊。被害は大。
昭和9年 9月21日	1934	室戸台風	死者・行方不明者295人、重軽傷者844人、流失・全半壊1473戸、半流失10戸、床上浸水106戸
昭和10年 6月29日	1935		茨木川・安威川の堤防が各所で決壊
昭和10年 8月10日	1935		茨木川・安威川の堤防が各所で決壊。鳥飼村で約35haの免租申請。
昭和25年 9月3日	1950	ジェーン台風	死者・行方不明者62人、重軽傷者1109人、流失・全半壊10,898戸、床上浸水6,328戸、床下浸水4,256戸、非住家被害1382戸
昭和26年 7月11日～15日	1951		安威川 西河原橋・永久橋が多大の被害。道路決壊12箇所
昭和28年 9月25日	1953	台風13号	死者1人、負傷者6人、全半壊81戸、床上浸水1450戸、床下浸水1,824戸、非住家浸水457戸
昭和36年 9月16日	1961	第二室戸台風	死者7人、負傷者691人、流失・全半壊1,767戸、床上浸水51,500戸、床下浸水54,000戸
昭和40年 5月26日～27日	1965	台風6号	床上浸水22戸、床下浸水226戸

### 3.治水事業の概要（(1)浸水被害）

神崎川ブロックでは、これまで多くの被害が発生しています。

過去の主な洪水の記録（昭和以降）

発生年月日	西暦	災害原因	主な概要
昭和42年 7月9日～13日	1967	梅雨前線	死者2人、負傷者59人、床上浸水5,520戸、床下浸水19,822戸
昭和43年 7月2日	1968	梅雨前線	死者1人、床上浸水198戸、床下浸水3,813戸、非住家浸水2戸
昭和44年 6月25日	1969	梅雨前線	半壊1戸、床上浸水25戸、床下浸水707戸、非住家浸水1戸
昭和47年 9月16日	1972	台風20号	半壊2戸、一部破損12戸、床上浸水8戸、床下浸水711戸
昭和54年 9月30日	1979	台風16号	半壊1戸、床上浸水12戸、床下浸水530戸
昭和56年 10月9日	1981	大雨	床上浸水26戸、床下浸水377戸
昭和58年 9月28日	1983	台風10号	床上浸水76戸、床下浸水886戸
平成9年 8月7日	1997	大雨	床上浸水101戸、床下浸水327戸、非住家浸水232戸
平成11年 6月29日～30日	1999	梅雨前線	床上浸水104戸、床下浸水100戸、非住家浸水33戸
平成25年 8月25日	2013	大雨	浸水戸数18戸

### 3.治水事業の概要（1）浸水被害

北摂豪雨（昭和42年7月）では、茨木雨量観測所で総雨量が215.5mm、時間最大48mmもの降雨が記録されています。当時の資料によると死傷者61名、田畑冠水約1,500ha、家屋の全半壊41戸、床上・床下浸水約25,000戸、河川堤防決壊12箇所、橋梁被害13橋などとなっており、茨木市と摂津市の約1/3が浸水したといわれています。



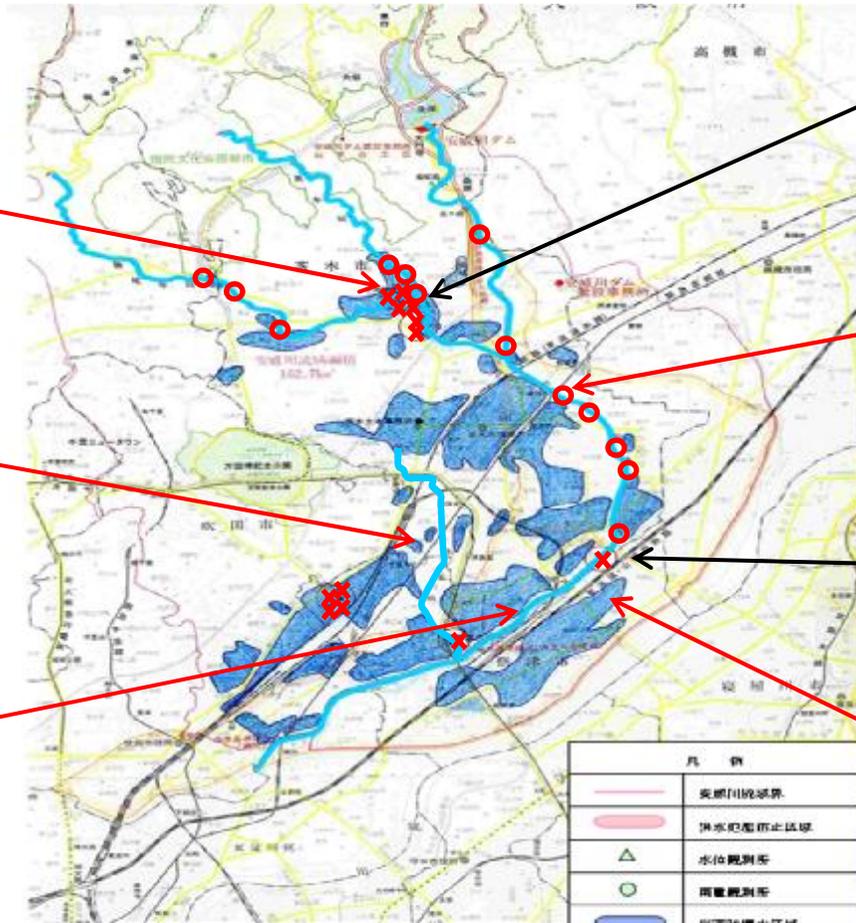
茨木川・藤尾寺川合流点付近（茨木市中河原町）



（茨木市沢尻）



JR 鳥飼基地（摂津市安威川南町）



昭和42年北摂豪雨災害

凡 例	
	安威川流域界
	洪水氾濫防止区域
	水位観測点
	雨量観測点
	災害時浸水区域
	堤防決壊箇所
	橋梁被害箇所

昭和42年7月9日21時30分 決壊  
 勝尾寺川左右岸（茨木市中河原地区）  
 【昭和42年7月豪雨災害：大阪府】



千歳橋の橋脚破損（茨木市戸伏町）

昭和42年7月9日22時00分 決壊  
 安威川左岸（茨木市野々宮地区）  
 【昭和42年7月豪雨災害：大阪府】



（摂津市鳥飼中）

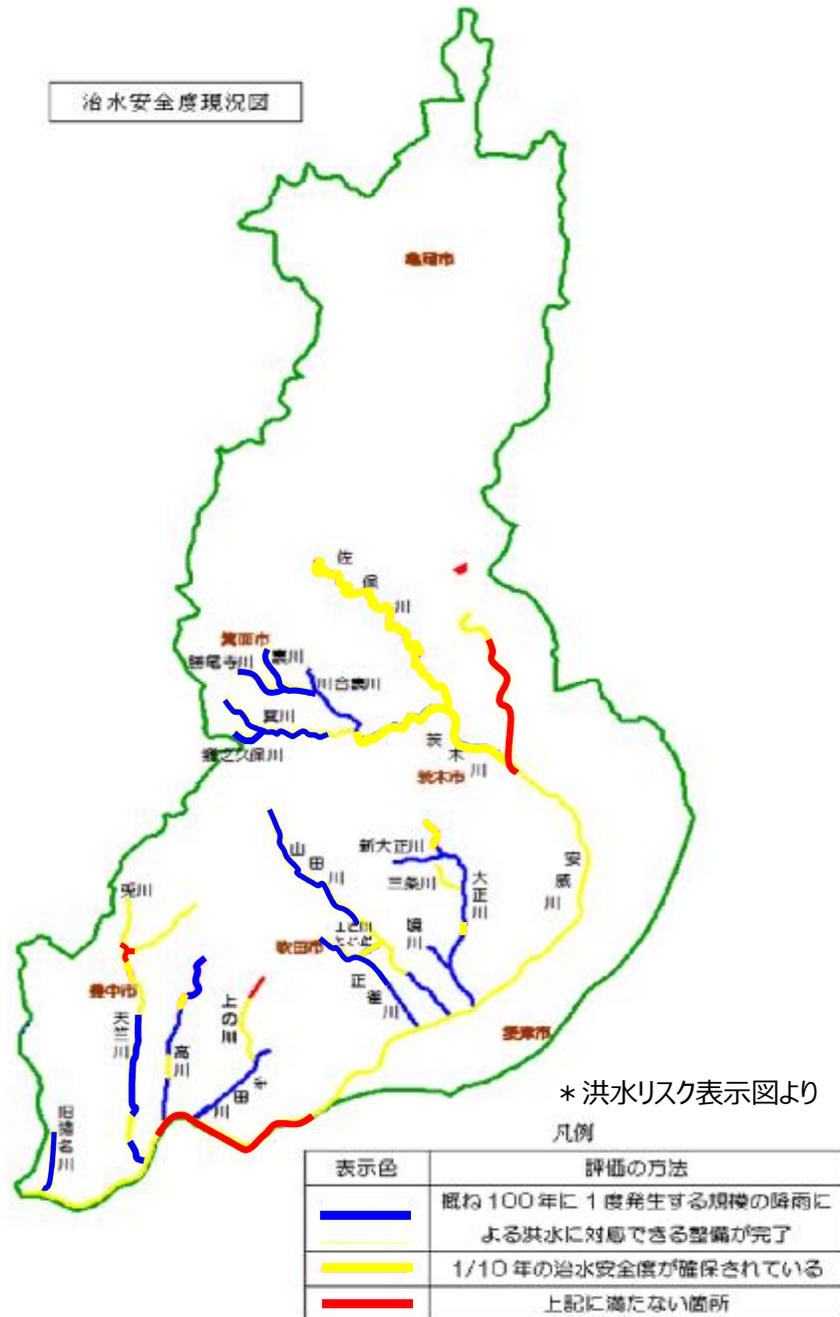
### 3.治水事業の概要（(2)治水上の課題）

本川筋となる神崎川・安威川の現況の治水安全度は概ね1/10年です。

支川の治水安全度については、旧稲猪名川、高川下流部、糸田川、正雀川下流部、山田川上下流部、大正川中下流部、境川、新大正川、勝尾寺川上流、裏川、川合裏川、郷之久保川においては、概ね100年に一度発生する規模の降雨による洪水に対応できる整備が完了しています。

天竺川、兎川の合流部や、上の川上流部、神崎川、安威川の一部区間では、現況の治水安全度が1/10年に満たない箇所があるため、治水安全度の向上をはかる必要があります。

その他河川では、現況の治水安全度は、概ね1/10年が確保されています。



# 3.治水事業の概要 ((3)治水事業の沿革 (ソフト対策))

大阪府では、神崎川流域、安威川流域、天竺川・兎川、高川、茨木川、山田川の浸水想定区域図を公表しています。  
 この浸水想定区域図をもとに流域市町において洪水ハザードマップを作成し、公表しています。  
 大阪府では、人命を守ることを最優先に、様々な降雨により想定される河川の氾濫や浸水の可能性を府民にわかりやすく提示することを目指した「洪水リスク表示図」を公表しています。

茨木市洪水・内水ハザードマップ

名前	電話番号	住所	電話番号
警察(急ぎ案件)	110	茨木市役所	072-622-8121
消防(火災・救助)	119	茨木市消防本部	072-622-6955
N T T	113	赤川分署	072-618-1119
大阪ガス(ガス)	0120-91-9624	下津分署	072-641-4141
関西電力(電力)	0800-777-8018	下津電分署	072-625-1402
茨木市水道部	072-622-8121	西川原分署	072-627-0841
茨木警察署	072-622-1234	赤坂分署	072-649-3222
(西)茨木保健所	072-626-6668	山田分署	072-645-5810
(西)茨木大車庫	072-627-1121	山手分署	072-645-0143
救急安心センター	※7119 又は	山手救急センター	072-625-7799
救急119コールセンター	06-6582-7119	新葛原救急センター	072-622-9999
緊急消防援助隊(消防)	177		

洪水リスク表示図



洪水リスク表示図 (大阪府HP)